RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 2021

2021（令和3）年11月25日（木）～26日（金）
宮城県栗原市・くりはら田園鉄道公園

くりはら田園鉄道公園・若柳駅跡

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症拡大が収まらず、２０２１年度（平成３）の総会・見学会も開催が懸念されておりましたが、栗原市さんのご英断もあり、この度２年ぶりに開催の運びとなりとても喜ばしく存じます。

しかし、この影響で歴史的車両の動態保存や運行、これに関連した観光振興などが停滞し、皆さまにおかれましても活動に苦慮する日々が続いておられることと拝察しており、心よりお見舞い申し上げます。どうぞ、皆で力を合わせて、明日に向かって頑張って参りましょう。

さて、鉄道文化財を取り巻く社会環境は、上向きにあります。文化庁が近代化遺産として歴史的車両の文化財指定を、これまで以上に推進しているからです。今年度は、国鉄一号路線バス（JR 東海／リニア・鉄道館)、キハ０７形気動車（JR 九州／九州鉄道記念館）が、国指定重要文化財になりました。おめでとうございます。

財団法人観光資源保護財団（現・公財日本ナショナルトラスト）が１９８４年度（昭和５９）に行った全国鉄道文化財調査のリストの中にもキハ０７形は掲載されております。当時、文化財と言えば史跡、名勝、天然記念物、社寺仏閣、民家、町並み等が主流であり、「歴史的車両なんて文化財じゃない」と文化財調査官からお叱りを受けた記憶があります。今や歴史的車両、施設構造物等は押しも押されない近代化遺産として文化財になり、隔世の感があります。

そして、来年２０２２年は鉄道開業１５０周年です。１８７２年（明治５）１０月に新橋―横濱間に我が国初の鉄道が開業しました。日本鉄道保存協会は、代表幹事団体の公益社団法人横浜歴史資産調査会と供に鉄道開業１５０周年委員会を設け、横浜を中心とした鉄道と生活文化をテーマに冊子の発行、イベントの開催、ロゴマークの作成を検討しております。

日本鉄道保存協会は、１９９１年（平成３）に発足し、今年で３０年です。来年の総会、見学会は、鉄道開業１５０周年と当会発足３０周年を記念して、鉄道発祥の地「ヨコハマ」で開催いたしたく存じます。

引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

２０２１年（令和３）１１月吉日
日本鉄道保存協会　代表幹事団体
公益社団法人横浜歴史資産調査会

会　長　宮村　忠

日本鉄道保存協会

2021年度総会・見学会プログラム

日　時　　2021年（令和3年）11月25日（木）～26日（金）

開催地　　宮城県栗原市

総　会　　エポカ21コンベンションホール
交流会　　ハイルザーム栗駒
宿　泊　　ハイルザーム栗駒

11月25日（木）

集合13：00　東北新幹線くりこま高原駅
（受付12：30～）

13：10　くりこま高原駅出発（バス移動）

くりはら田園鉄道廃線跡見学

・沢辺駅跡
・栗駒駅跡
・秋法隧道
・二迫川橋梁　など

15：00　細倉マインパーク、細倉鉱山資料館見学

17：00　ハイルザーム栗駒

18：30　交流会

開会の挨拶

11月26日（金）

9:00　ハイルザーム栗駒出発（バス移動）

9:10　駒の湯慰霊碑献花

10:30　くりはら田園鉄道公園

・くりでんミュージアム
・若柳駅跡
・くりでん車両乗車

12:30　昼食（はさま会館）

13:30　総会・シンポジウム受付開始

14:00　総会

主催者挨拶　　日本鉄道保存協会顧問・東武博物館名誉館長　花上　嘉成氏

来賓挨拶　　栗原市長　　佐藤　智氏

14:30　開催地報告

『くりはら田園鉄道の歴史』　　くりでんミュージアム　学芸員　大杉　要氏
『廃線後の保存に向けた取り組み』　　栗原市企画部企画課　　主査　佐藤　喬氏
『くりはら田園公園の取り組み』　くりでんミュージアム　管理責任者　高橋　尚史氏

14:50　シンポジウム『歴史的車両の動態保存と地域活性化』

パネラー
ふるさと銀河線りくべつ鉄道　　事務局長　杉本　武勝氏

小坂鉄道保存協会　　小坂鉄道保存会副会長　吉野　幸裕氏

南部縦貫レールバス愛好会　　代表理事　星野　正博氏

コーディネーター　　日本鉄道保存協会事務局　米山　淳一

16:30　終了・解散

以上

日本鉄道保存協会（RPSJ）2021年度総会　出欠一覧表

2021年11月11日　現在

資　格	所　属		役　職	氏　名	見学会	宿泊	交流会	総会
顧問	公益財団法人　交通協力会		顧　問	菅　　建彦	欠席			
顧問	一般財団法人　東武博物館		理事 名誉館長	花上　嘉成	○	○	○	○
顧問	元三菱地所株式会社・鉄道史家			辻　聡	○	○	○	○
顧問	高崎経済大学		名誉教授	大島　登志彦	○	○	○	○
正会員	遠軽町（旧丸瀬布町）	丸瀬布総合支所産業課		上戸　智仁	欠席			
正会員	陸別町商工会	（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）	事務局長	杉本　武勝	○	○	○	○
正会員	三笠市			下村　圭	○	○	○	○
正会員	三笠市			石井　恵太	○	○	○	○
正会員	三菱大夕張鉄道保存会		事務局長	今井　一郎	欠席			
正会員	NPO法人　オホーツク鉄道歴史保存会		理事長	長南　進一	欠席			
正会員	北海道旅客鉄道株式会社（JR北海道）	鉄道事業本部　運輸部運用課		松田　道規	欠席			
正会員	一般社団法人　南部縦貫レールバス愛好会		代表理事	星野　正博				○
正会員	七百レールファンクラブ		副会長	野田　悟	欠席			
正会員	小坂鉄道保存会		副会長	吉野　幸裕	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会			吉野　千鶴子	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会			長渕　勇一	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会			大谷　清次	○	○	○	○
正会員	栗原市	くりはら田園鉄道公園		千田　順一	○	○	○	○
正会員	栗原市	くりはら田園鉄道公園		佐藤　喬	○	○	○	○
正会員	栗原市	くりはら田園鉄道公園	学芸員	高橋　尚史	○	○	○	○
正会員	栗原市	くりはら田園鉄道公園	学芸員	大杉　要	○	○	○	○
正会員	くりでん保存愛好会	（栗原市）		山田　洋一			○	
正会員	くりでん保存愛好会	（栗原市）		高橋　敏昭	○	○	○	○
正会員	東北鉄道資料保存協議会	（みちのく鉄道応援団）	代表幹事	佐藤　茂	○	○	○	○
正会員	真岡線SL運行協議会			間宮　嘉明	欠席			
正会員	一般社団法人　あしおトロッコ館		理事	岡本　憲之	欠席			
正会員	鹿島鉄道保存会			加藤　三千尋	欠席			
正会員	鉾田駅保存会		理事	川津　重夫	欠席			
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ	（レールパーク）		野口　稔夫	○	○	○	○
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ	（レールパーク）		小川　知宏	○	○	○	○
正会員	一般社団法人　碓氷峠交流記念財団	（碓氷峠鉄道文化むら）		小崎　正人	欠席			
正会員	一般社団法人　電鉄文化保存会		代表	日暮　成一	○	○	○	○
正会員	一般社団法人　電鉄文化保存会			益子　真治	○	○	○	○
正会員	日本工業大学	（工業技術博物館）		五月女　浩樹	欠席			
正会員	秩父鉄道株式会社			木村　壮史	欠席			
正会員	東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）			安藤　文人	欠席			
正会員	公益財団法人　東日本鉄道文化財団			岩見　隆則				○
正会員	一般財団法人　東武博物館		課長	伊藤　美千夫	欠席			
正会員	公益財団法人　日本ナショナルトラスト		事業課	大久保　優美	欠席			
正会員	公益財団法人　交通協力会		会長	菅　建彦	欠席			
正会員	横浜市電1156号保存会			齋藤　大起				○
正会員	公益社団法人　横浜歴史資産調査会		常務理事	米山　淳一	○	○	○	○
正会員	新潟市新津鉄道資料館		副館長	加藤　裕之	欠席			
正会員	上松町（赤沢森林鉄道）	産業観光課商工観光係	係長	見浦　崇	欠席			
正会員	信濃追分駅舎・可惜（あたら）会			河合　桃子				
正会員	足久保鐵道株式会社			玉井　宏政	欠席			
正会員	大井川鐵道株式会社		鉄道部長	坂本　光司	欠席			
正会員	東海旅客鉄道株式会社（JR東海）	リニア・鉄道館	副長	松木　紳一郎	○	○	○	○
正会員	博物館明治村（公益財団法人　明治村）			近藤　雅隆	欠席			
正会員	NPO法人 愛岐トンネル群保存再生委員会		理事長	村上　真善	○	○	○	○
正会員	NPO法人　神岡・町づくりネットワーク			田口　由加子	○	○	○	○
正会員	公益社団法人 長浜観光協会	（長浜鉄道スクエア）		梅園　いつ子	○	○	○	○
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会			西田　周平	○	○	○	○
正会員	NPO法人　貨物鉄道博物館		常務理事	南野　哲志	欠席			
正会員	西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）			多田　祐貴	欠席			
正会員	公益財団法人　交通文化振興財団	交通資料調査センター	センター長	川端　英登				○
正会員	宮津海陸運輸株式会社		管理課長	柴田　万喜也	欠席			
正会員	NPO法人　加悦鐵道保存会			松原　光也	○	○	○	○

資　格	所　属		役　職	氏　名	見学会	宿泊	交流会	総会
正会員	片上鉄道保存会			甲本　康則	○	○	○	○
正会員	若桜駅を元気にする会	（若桜町ふるさと創生課）		北内　泰久	欠席			
正会員	NPO法人　市民文化財ネットワーク鳥取				欠席			
正会員	山口線SL運行対策協議会	山口県 観光プロモーション室		中上　秀太	欠席			
正会員	西条市　鉄道歴史パーク　in SAIJO	四国鉄道文化館	館長	加藤　圭哉	○	○	○	○
正会員	馬路村	魚梁瀬森林鉄道		徳廣　将也	欠席			
正会員	宇高連絡船愛好會			三村　卓也	○	○	○	○
正会員	九州旅客鉄道株式会社（JR九州）		広報部	岡　広樹	欠席			
正会員	北九州線車輛保存会		代表	手嶋　康人	○	○	○	○
正会員	北九州線車輛保存会			谷本　悠	○	○	○	○
賛助会員	カルチュア・エンタテインメント（株）	ネコ・パブリッシングカンパニー			欠席			
賛助会員	株式会社鉄道ジャーナル社			伊藤　丈志	欠席			
賛助会員	日本鉄道写真作家協会		会長	猪井　貴志	○	○	○	○
賛助会員	日本鉄道写真作家協会			梅木　隆秀	○	○	○	○
賛助会員	有限会社　レイルマンフォトオフィス		会長	山﨑　友也	欠席			
賛助会員	有限会社鉄道フォーラム		代表取締役	伊藤　博康	○	○	○	○
賛助会員	有限会社鉄道フォーラム			仲沢　幸祐	○	○	○	○
賛助会員	株式会社片上鉄道				欠席			
賛助会員	株式会社日本旅行				欠席			
賛助会員	株式会社井門コーポレーション			丹下　昭英				○
賛助会員	株式会社東海汽缶		取締役業務統括部長	石川　寛之	欠席			
賛助会員	株式会社ヤマネ		技術部課長	高見　浩	○	○	○	○
友の会会員				安部　敏陽	○	○	○	○
友の会会員				阿部　豊	欠席			
友の会会員				岩野　弘一	○	○	○	○
友の会会員				神﨑　史恵	○	○	○	○
友の会会員	東京地下鉄株式会社			倉繁　聡	欠席			
友の会会員				柴山　純一	欠席			
友の会会員	トラベルライター			白川　淳				○
友の会会員				杉崎　行恭	欠席			
友の会会員				須藤　哲也	欠席			
友の会会員				関田　克孝	欠席			
友の会会員				関本　康人	欠席			
友の会会員				橘　秀幸	欠席			
友の会会員				田中　浩史	欠席			
友の会会員				長野　光芳	欠席			
友の会会員				名取　紀之	欠席			
友の会会員				西尾　恵介	欠席			
友の会会員				野田　知毅	欠席			
友の会会員				畠山　明久	○	○	○	○
友の会会員				藤井　修	欠席			
友の会会員				水野　弥彦	欠席			
オブザーバー				山崎　朗	○	○	○	○
オブザーバー	株式会社ジェイアール四国企画		営業部長	松本　新一	○	○	○	○
オブザーバー	機関車C5631号保存会		技術局	後藤　優斗	○	○	○	○
オブザーバー	システムワークス			中村　匡宏	○	○	○	○
オブザーバー	鉄道開業150周年記念事業委員会			北村　圭一	○	○	○	
オブザーバー	NPO法人　語りつぐ青函連絡船の会			高橋　摂	○	○	○	○
オブザーバー	NPO法人　語りつぐ青函連絡船の会			大熊　昭	○	○	○	○
事務局	日本鉄道保存協会		事務局長	米山　淳一				
事務局	日本鉄道保存協会	友の会会員	事務局	河合　桃子	○	○	○	○
事務局	日本鉄道保存協会	友の会会員	事務局	田中　光一	○	○	○	○
事務局	日本鉄道保存協会	友の会会員	事務局	赤羽　誠	○	○	○	○

日本鉄道保存協会　会員名簿

2021.11.12.現在

＜凡　例＞

番 号　　団　体　名（施設名）
〒　　団体所在地　／　連絡先住所
電話番号　／　Fax 番号

団体代表者名
RPSJ 担当者名（☆）

正 会 員

01　遠軽町（旧丸瀬布町）
〒099-0203　北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所　産業課
Tel　0158-47-2213　　Fax　0158-47-2128

町　長　　佐々木修一
係　長　　上戸　智仁（☆）

02　陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）
〒089-4300　北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Te1　0156-27-2244　　Fax　0156-27-2791

会　長　　石橋　　強
事務局長　　杉本　武勝（☆）

03　三笠市（三笠鉄道村）
〒068-2192　北海道三笠市幸町 2
三笠市役所　経済建設部商工観光課　商工観光係
Tel　01267-2-3997　　Fax　01267-2-7880

市　長　　西城　賢策
主　事　　新山　淳（☆）

04　三菱大夕張鉄道保存会
〒069-0855　北海道江別市大麻宮町 4-6
Tel　011-387-4783

事務局長　　今井　一郎（☆）

05　NPO 法人オホーツク鉄道歴史保存会　※新加入
〒090-0817　北見市常盤町 2-4-53
Tel　090-9524-9315

理事長　　長南　進一（☆）

06　北海道旅客鉄道株式会社
〒060-8644　札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel　011-700-5785　　Fax　011-700-5786

代表取締役社長　　島田　　修
運輸部運用課　　松田　道規（☆）

07　一般社団法人　南部縦貫レールバス愛好会
〒133-0051　江戸川区北小岩 2-14-2-111 号
Tel　03-3672-7709

代表理事　　星野　正博（☆）

08 七百レールファンクラブ（七百鉄道記念館）
〒336-0926　さいたま市緑区東浦和 4-23-4-101
Tel　070-6528-2629

会　長　　斎藤　　正
副会長　　野田　　悟（☆）

09　小坂鉄道保存会（小坂鉄道レールパーク）
〒017-0202　秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山古川 20-9
小坂鉄道レールパーク気付
Tel　0186-25-8890　　Fax　0186-29-2002

代　表　　千葉　裕之
総務局長　　亀沢　　修（☆）

10　栗原市（くりはら田園鉄道公園）
〒987-2252　宮城県栗原市築館薬師 1-7-1
栗原市役所企画部企画課
Tel　0228-22-1125　　Fax　0228-22-0313

市　長　　佐藤　　智
企画部企画課　　佐藤　　喬（☆）

11　東北鉄道資料保存協議会（みちのく鉄道応援団）　※新加入
〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4-10-3
JR 東日本東北総合サービス総務企画室（事務局）
Tel　090-6854-9258　Fax　022-248-9258

代表幹事　　佐藤　　茂（☆）

12　真岡線 SL 運行協議会
〒321-4415　栃木県真岡市下籠谷 4412
Te1　0285-82-9151　　Fax　0285-82-9152

会　長（真岡市長）　石坂　真一
事務局長　　菊地　髙樹
担　当　　間宵　嘉明（☆）

13　一般社団法人　あしおトロッコ館
〒321-1523　栃木県日光市足尾町松原 12-5
Tel・Fax　0288-93-0189

総務担当　岡本　憲之（☆）

14　鹿島鉄道保存会（鹿島鉄道記念館）
〒113-0033　文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階
株式会社パレア
Tel　03-5802-2755　Fax　03-3818-2700

代　表　加藤三千尋（☆）

15　鉾田駅保存会
〒310-0001　水戸市上河内町 162
Tel・Fax　029-239-6735

理　事　川津　重夫（☆）

16　ザ・ヒロサワ・シティ（レールパーク）

〒308-0811　茨城県筑西市茂田　ザ・ヒロサワ・シティ
株式会社広沢商事内
Tel　0296-21-1234　Fax　0296-24-7837

代　表　廣澤　　清
担　当　野口　稔夫（☆）

17　一般財団法人　碓氷峠交流記念財団（碓氷峠鉄道文化むら）
〒379-0301　群馬県安中市松井田町横川 407-16
Tel　027-380-4163　Fax　027-380-4111

代表理事　中島　吉久
館　長　飯沼　　勲
事務局長　小崎　正人（☆）

18　一般社団法人電鉄文化保存会
〒331-0802　さいたま市北区本郷町 313　蓮見住宅 C-3

代　表　日暮　成一（☆）

19　日本工業大学（工業技術博物館）
〒345-8501　埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel　0480-33-7545　Fax　0480-33-7570

学　長　成田　健一
館　長　清水　伸二
講師　五月女浩樹（☆）

20　秩父鉄道株式会社
〒360-0033　埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel　048-523-3337　　Fax　048-526-0551

代表取締役社長　　大谷　隆男
技術部車両課　　木村　壮史（☆）

21　東日本旅客鉄道株式会社
〒151-8578　渋谷区代々木 2-2
Tel　03-5334-1352

代表取締役社長　　深澤　祐二
総務・法務戦略部　　安藤　文人（☆）

22　公益財団法人　東日本鉄道文化財団
〒330-0852　さいたま市大宮区大成 3-47　鉄道博物館
Tel　048-651-0088　　Fax　048-651-0570

会長　　冨田　哲郎
学芸部　　五十嵐健一（☆）

23　一般財団法人　東武博物館
〒131-0032　墨田区東向島 4-28-16
Tel　03-3614-8811　　Fax　03-3614-8814

理事長　　三輪　裕章
名誉館長　　花上　嘉成
専務理事・館長　　山田　智則
管理課長　　山澤　晴行（☆）

24　公益財団法人　日本ナショナルトラスト
〒102-0083　千代田区麹町 4-5　海事センタービル 4 階
Tel　03-6380-8511　　Fax　03-3237-1190

会　長　　梅崎　　壽
事業課　　大久保優美（☆）

25　公益財団法人　交通協力会
〒100-0005　千代田区丸の内 3-4-1　新国際ビル 903
Tel　03-6269-9808　　Fax　03-6269-9809

顧　問　　菅　　建彦（☆）

26　横浜市電 1156 号保存会
〒231-8445　横浜市中区太田町 2-23　神奈川新聞社文化部
Tel　090-9015-3707

代　表　　齊藤　大起（☆）

27　公益社団法人　横浜歴史資産調査会（ヨコハマヘリテイジ）
〒231-0012　横浜市中区相生町 3-61　泰生ビル 405
Tel　045-651-1730

会　長　宮村　　忠
常務理事　米山　淳一（☆）

28　新潟市新津鉄道資料館
〒956-0816　新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
新潟市文化スポーツ部歴史文化課　新津鉄道資料館
Tel　0250-24-5700　　Fax　0250-25-7808

館　長　高山　栄一
副館長　加藤　裕之（☆）

29　上松町（赤沢森林鉄道）
〒399-5603　長野県木曽郡上松町駅前通り 2-13
上松町役場産業観光課
Tel　0264-52-4804　　Fax　0264-52-1038

町　長　大屋　　誠
商工観光係　藤原　　真（☆）

30　信濃追分駅舎・可惜（あたら）会
長野県軽井沢町追分
Tel　　090-7704-1918（河合☆）

代表　那須　由莉

31　足久保鐵道株式会社
〒420-0905　静岡市葵区南沼上 3-11-3
Tel　054-207-7444

代表取締役　玉井　宏政（☆）

32　大井川鐵道株式会社
〒428-8503　静岡県島田市金谷東 2 丁目 1112-2
Tel　0547-45-4111　　Fax　0547-45-4115

代表取締役社長　鈴木　　肇
鉄道部長　坂本　光司（☆）

33　東海旅客鉄道株式会社（リニア・鉄道館）
〒455-0848　名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2　リニア・鉄道館

Tel　052-389-6100　　Fax　052-389-6101

代表取締役社長　金子　　慎
館　長　天野　満宏（☆）

34　公益財団法人　明治村（博物館明治村）
〒484-0000　愛知県犬山市内山 1 番地
Tel　0568-67-0314　　Fax　0568-67-0358

館　長　　中川　　武
所　長　　三好　　学
主　任　　近藤　雅隆（☆）

35　NPO 法人　愛岐トンネル群保存再生委員会
〒463-0032　愛知県名古屋市守山区白山 1-708
Tel　090-4860-4664

理事長　　村上　真善（☆）

36　NPO 法人　神岡・町づくりネットワーク
〒506-1147　岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2
Tel　090-2454-1506　　Fax　0578-82-6677

理事長　　鈴木　進悟
レールマウンテン
バイク事務局　　田口由加子（☆）

37　公益社団法人　長浜観光協会（長浜鉄道スクエア）
〒526-0057　滋賀県長浜市北船町 1-41
Tel　0749-63-4091　　Fax　0749-64-0396

館　長　　今井　克美
主　査　　梅園いつ子（☆）

38　長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会
〒526-8501　滋賀県長浜市八幡町 632
Tel　0749-65-6521　　Fax　　0749-64-0396

事務局（長浜市）　　川瀬　雄太（☆）

39　NPO 法人　貨物鉄道博物館
〒510-8014　三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道株式会社内
Tel　059-364-2141　　Fax　059-364-2142

館　長　　吉岡　心平
常務理事　　南野　哲志（☆）

40　西日本旅客鉄道株式会社
〒530-8341　大阪市北区芝田 2-4-24
Tel　06-6375-2176　　Fax　06-6376-6053

代表取締役社長　　長谷川一明
広報部　　岩倉　秀昭（☆）

41　公益財団法人　交通文化振興財団
〒531-0011　大阪市淀川区西中島 4-2-26　天神第一ビル 1004
Tel　06-6309-5113　　Fax　06-6309-5114

理事長　長谷川一明
専務理事　前田　昌裕
交通調査センター長　川端　英登（☆）

42　宮津海陸運輸株式会社（加悦 SL 広場）
〒629-2422　京都府与謝郡与謝野町滝 941-2
Tel　0772-42-3186　　Fax　0772-42-5300

代表取締役　館農　　昇
管理課長　柴田万喜也（☆）

43　NPO 法人　加悦鐵道保存会
〒612-8485　京都市伏見区久我森の宮町 4-144
Tel　090-3829-4000

理事長　吉田　博一
副理事長　中井　喜宏（☆）

44　片上鉄道保存会
〒708-0001　岡山県津山市小原 149-5
Tel　090-7896-4858

代表幹事　甲本　康則（☆）

45　若桜駅を元気にする会
〒680-0792　鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場ふるさと創生課
Tel　0858-82-2231　　Fax　0858-82-0134

会　長　藤原　源市
事務局　谷本　　剛
事務局　北内　泰久（☆）

46　NPO 法人　市民文化財ネットワーク鳥取
〒680-0022　鳥取市西町 1-106
Tel　0857-26-1151　　Fax　0857-22-4103

理事長　渡辺　一正
事務局長　太田　　縁（☆）

47　山口線 SL 運行対策協議会
〒753-8501　山口市滝町 1-1
山口県庁観光スポーツ文化部　観光プロモーション推進室
Tel　083-933-3170　　Fax　083-933-3179

会　長　三坂　啓司
プロモーション
グループ　中上　秀太（☆）

48　西条市（鉄道歴史パーク in SAIJO）
〒793-8601　愛媛県西条市明屋敷 164
Tel　0897-56-5151　　Fax　0897-52-1200

市　長　　玉井　敏久
観光交流センター　　寺田　　達（☆）

49　馬路村（魚梁瀬森林鉄道）
〒781-6202　高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所　やなせ森林鉄道運営委員会
Tel　0887-43-2211　　Fax　0887-43-2208

村　長　　山崎　　出
魚梁瀬支所　　徳廣　将也（☆）

50　宇高連絡船愛好會
〒706-0011　岡山県玉野市宇野 5-21-13
Tel　0863-32-4081

代　表　　三村　卓也（☆）

51　九州旅客鉄道株式会社
〒812-8566　福岡市博多区博多駅前 3-25-21
Tel　092-474-2541　　Fax　092-474-3898

代表取締役社長　　青柳　俊彦
広報部　　岡　　広樹（☆）

52　北九州線車輛保存会
〒818-0071　福岡県筑紫野市二日市西 3-12-1
Tel　080-6412-1666

代　表　　手嶋　康人（☆）

賛 助 会 員

01　カルチュア・エンタテインメント（株）
ネコ・パブリッシングカンパニー
〒141-8201　品川区上大崎 3-1-1　目黒セントラルスクエア

レイルマガジン編集長（☆）

02　株式会社鉄道ジャーナル社
〒102-0072　千代田区飯田橋 4-8-6　日産ビル 3F
Tel　03-3264-1891　　Fax　03-3265-3597

編集長　　宮原　正和
編集部　　伊藤　丈志（☆）

03　日本鉄道写真作家協会
〒188-0011　西東京市田無町 2-17-8-304
有限会社マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ内

会　長　　猪井　貴志
事務局・副会長　　長根　広和（☆）

04　有限会社　レイルマンフォトオフィス
〒102-0072　千代田区飯田橋 3-4-3　エレガンス飯田橋 504
Tel　03-5212-2045　　Fax　03-5212-2046

会　長　　山﨑　友也（☆）

05　有限会社鉄道フォーラム
〒484-0085　愛知県犬山市西古券 57
Tel　0568-62-9603　　Fax　0568-61-6310

代表取締役　　伊藤　博康（☆）

06　株式会社片上鉄道
〒708-1523　岡山県久米郡美咲町吉ケ原 517
Tel　080-3541-5552　　Fax　082-507-2035

代表取締役　　森岡　直子（☆）

07　株式会社日本旅行
〒105-8606　東京都中央区日本橋 1-19-1　日本橋ダイヤビルディング 12 階
Tel　03-6895-7865

代表取締役社長　　堀坂　明弘
情報システム部　　瀬端　浩之（☆）

08　株式会社井門コーポレーション
〒140-0011　東京都品川区東大井 5-15-3
Tel　03-3450-11112　　Fax　03-3450-2516

代表取締役社長　　井門　義博（☆）

09　株式会社東海汽缶
〒424-0065　静岡県静岡市清水区長崎 970
Tel　054-346-6688　　Fax　054-346-6430

取締役業務統括部長　石川　寛之（☆）

10　株式会社ヤマネ
〒561-0831　大阪府豊中市庄内西町 5-1-76
Tel　06-6332-0157　　Fax　06-6332-7086

代表取締役社長　　林　　圭祐
技術部課長　　高見　　浩（☆）

友の会　会員（五十音順）

赤羽　　誠	阿部　　豊	岩野　弘一	加藤　圭哉	河合　桃子
倉繁　　聡	柴山　純一	白川　　淳	須藤　哲也	関田　克孝
関本　康人	橘　　秀幸	田中　光一	田中　浩史	長野　光芳
名取　紀之	西尾　恵介	野田　知毅	畠山　明久	藤井　　修
水野　彌彦	杉﨑　行恭	神﨑　史恵	安倍　敏陽	

以　上

日本鉄道保存協会規約

（名称）

第１条　　この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下［協会］という）とする。

（目的）

第２条　　協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

（会員）

第３条　　協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

（会議）

第４条

１．協会の会議は、総会および幹事会とする。

２．総会は年１回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

（役員団体）

第５条

１．協会に代表幹事団体１団体、幹事団体２団体、会計監事団体２団体を置く。

２．代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。

３．代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
　幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
　会計監事団体は、協会の会計を監査する。

４．役員団体の任期は２年とし、重任を妨げない。

（顧問）

第６条　　協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は２年とし、重任を妨げない。

（友の会）

第６条の２

１．協会に日本鉄道保存協会友の会（以下［友の会］という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。

２．友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

（事務局）

第７条　　協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

（会費）

第８条

１．協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。

２．年会費の額は、正会員１２，０００円、賛助会員１２，０００円（１口）、友の会会員３，０００円とする。

３．会計年度は、４月１日から翌年３月３１日までとする。

（規約の改正）

第９条　　この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則　　この規則は、平成３年４月１日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成　３年　４月　１日施行
平成　６年　８月１０日改正
平成１６年　９月１０日改正
平成２０年１０月　２日改正

団体名	遠軽町	〒　099-0203 Tel：0158-47-2213　　Fax：0158-47-2128 URL：http://engaru.jp/ Email：m-sangyou@engaru.jp 担当者：丸瀬布総合支所産業課　係長　上戸　智仁

H26.9.23 撮影
雨宮 21 号・DL 機関車併走同時運行

雨宮21号は森林鉄道用の蒸気機関車として昭和3年から約30年間、木材の運搬や生活物資の運搬のため武利意森林鉄道で活躍した車輌の１台です。
用途廃止後は、町民の保存運動によって唯一本機のみがスクラップ化を免れ、昭和54年には森林公園いこいの森で待望の動態保存が実現しました。

平成 16 年度　北海道遺産に選定（NPO 法人北海道遺産協議会）
平成 20 年度　近代化産業遺産に認定（経済産業省）
平成 24 年度　準鉄道記念物に認定（ＪＲ北海道）
平成 29 年度　林業遺産に認定(一般社団法人　日本森林学会)

1.運行日　　令和３年４月２９日から１０月１７日までのＧＷ・夏休み・土・日・祝日
2.運行時間　１０時から１６時３０分（３０分毎）
3.運行区間　森林公園いこいの森園内　２ｋｍ
4.乗車料金　大人５００円（高校生以上）　小人２５０円（４才以上）

【近況報告】
◆緊急事態宣言を受け、新型コロナウイルス感染拡大防止のため２度休園
◆夜桜撮影会・観光祭りミッドナイトラン・お月見列車運行撮影会は中止
◆地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）継続中
昨年、林野庁中部森林管理局愛知森林管理事務所名古屋事務所管理(定光路自然休養林保管)の協三工業製 10t ディーゼル機関車を購入しました。
このディーゼル機関車は、紋別郡滝上営林署、長野県上松営林署で木材輸送のために使われていたものです。
遠軽町では、現在、「ロマンあふれる「森林鉄道の聖地」１０ｔディーゼル機関車動態復元プロジェクト」への支援を募集しております。

昭和 31 年に製造された 10ｔディーゼル機関車が、丸瀬布森林公園いこいの森で、再び汽笛を上げるロマンあふれるプロジェクトにご協力をお願いします。

団体名	ふるさと銀河線 りくべつ鉄道	〒　089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線６９番地１ Tel：0156-27-2244　　Fax：0156-27-2791 URL　http://rikubetsu-railway.jimdo.com/ Email　r_rail@rikubetsu.ltd

☆ 気動車運転体験が出来る観光鉄道 ☆

【営業期間】（令和３年度）

４月２４日（土）～１０月３１日（日）

【気動車運転体験】

ＣＲ７０・７５型車両を運転士の指導を受けながら運転していただくコースです。
全て２ヶ月前からインターネット又は電話にて予約を開始（S コースは空きがあれば運転可能）

（S コース） １５分程度の運転体験
　料　　金：２，０００円
　対 象 者：小学校以上
（L コース） ８０分程度で講習・出区点検・ポイント切替・運転体験等
　料　　金：２０，０００円
　対 象 者：１８歳以上
（銀河コース） ８０分程度で構外運転 1.6km
　料　　金：３０，０００円
　対 象 者：１８歳以上
　条　　件：L コースの体験者
（新銀河コース） ８０分程度で構外運転 2.8km
　料　　金：３５，０００円
　条　　件：銀河コースの体験者
（分線コース） ８０分程度で構外運転 2.8km
　料　　金：６０，０００円
　条　　件：新銀河コースの体験者

【気動車乗車体験】

ＣＲ７５（銀河鉄道９９９列車）を使用して運行しております。
料金：（構内）中学生以上３００円、
　　小学生　　２００円
　　小学生未満無料

　　（構外）中学生以上５００円
　　小学生　　３００円
　　小学生未満無料

【トロッコ体験】

足こぎ式トロッコで４００ｍの周回コースを１周
料金：中学生以上３００円・小学生２００円
　　小学生未満無料

（銀河コースパックセット）
L コース、銀河コース、新銀河コース、分線コースを２日以上連続でご利用される方には、町内無料宿泊券(２食付)がつきます。(なか日のみ)

＜令和２年度事業経過＞

２００８年４月に開業した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は、今年開業１４年目を迎え４月２４日から運行を開始いたしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で通常運行を一部変更して実施しております。

２０１０年に「日本鉄道保存協会全国大会」が陸別町で開催され、２０１２年より１．６ｋｍ構外へ延伸した運転体験「銀河コース」を開設し翌年にはトロッコ周回路１周４００ｍを設置、同年９月に「銀河鉄道９９９」の原作者「松本零士氏」を招き陸別町銀河の森天文台とメーテル号を結びつけた共同イベントを開催しました。

昨年は、銀河コースをさらに１．２ｋｍ延伸した「新銀河コース」２．８ｋｍを開設し、今年は廃線後残っている５．７ｋｍ先の旧分線駅(隣駅)までの「分線コース」の運転体験も行なっております。現在旧分線駅周辺では、再開発としてホームの再建、北見方面に線路を５０ｍ延伸して車両整備庫を建設しております。

＜2021 年から１駅区間の運転可能＞

＜令和３年度イベントスケジュール＞

※今年の特別運行は５．７ｋｍ先の旧分線駅まで往復

４月２４日(土)　令和３年度営業開始
５月　５日(水)　子どもの日構外特別運行
７月２５日(日)　分線コース開設記念構外特別運行
８月１５日(日)　夏休み構外特別運行
９月２６日(日)　網走線開業記念構外特別運行（中止）
１０月１０日(日)　鉄道の日記念構外特別運行
１０月３１日(日)　令和３年度営業最終日

◎りくべつ鉄道利用者に牛乳無料配付実施中

団体名	北海道三笠市	〒068-2192　北海道三笠市幸町２番地 三笠市役所商工観光課 Tel：01267-2-3997　　Fax：01267-2-7880 Email：kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL：http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施設名	三笠鉄道村	〒068-2145　北海道三笠市幌内町２丁目 三笠鉄道記念館 Tel：01267-3-1123　　Fax：01267-2-6965 Email：tetsudoumura@s-304.com URL：http//www.s-304.com

三笠鉄道記念館は、北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため、昭和 62 年にオープンしました。館内には、明治時代の貴重な材料や、大正、昭和期に実際に使用された時刻表・制服・ＳＬ部品・信号機をはじめ北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車 S-304 号は、1939 年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■ＳＬ運行（乗車１回３００円）
運行日‥‥‥‥４月１６日から
１０月１５日までの土・日・祝日
※７月下旬～８月中旬までの夏休み期間は、
休館日を除き毎日運行。
土曜‥‥‥‥‥１２：００始発～１６：００発最終
日曜・祝日‥‥１０：００始発～１６：００発最終
※３０分毎の発車です。
ただし、　１２：３０発の便はありません。

■ＳＬ機関士運転体験
三笠鉄道村では、蒸気機関車 S-304 号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道 450m を 1 往復。5 分足らずのわずかな時間ですが、気分はＳＬ機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も 850 人を超え、多くの方に楽しんでいただいています。（詳しい体験方法はホームページご参照）

■展示車両（三笠鉄道村幌内ゾーン）
動態展示‥‥S-304（C 形タンク機）、コトラ 149456、コトラ 153095
機関庫内展示‥‥C122（国鉄 C12 形機関車）、59609（国鉄 9600 形機関車）　、ED76505、DD13353
屋外展示‥‥DD51610、オハフ 33451、スハフ 4412、　スユニ 50505、キハ 2252、キハ 2723、キロ 26104、キハ 5616、DD1517、DD141、チキ 6147、ソ 81、スエ 3041、スエ 321、DD1615、キ 274、キ　756、セキ　6657、トラ　72568、ワム　66172、DE101702、排雪モーターカー510、ロータリー排雪車 DL7L、坑外用 8ｔ電気機関車 2 両
食堂車‥‥スハフ 4520、キシ 8031、オハフ 46504

■　イベント開催
毎年のゴールデンウィーク、お盆、秋にイベントを実施。
イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぽっぽレンジャー」が登場します。
今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり例年実施している規模でのイベントを開催することはできませんでしたが、密を回避する形として「どん菓子」の配布や縁日コーナーを設置し、夏休み期間の子どもたちに楽しんでいただきました。

■　教育旅行の受け入れ
毎年、三笠ジオパークの活動と連動し、教育旅行の受け入れを行っており、日本の近代化や北海道開拓を支え、幌内炭鉱から採掘された石炭を本州へ輸送するため、北海道で最初に敷設された幌内鉄道の歴史を多くの学生の皆さんに学んでいただきました。
受け入れ人数も着実に伸びてきており、更なる教育プログラムの推進に力を入れていきたいと考えております。

団　体　名	三菱大夕張鉄道保存会	（事務局） 068-0534　夕張市清水沢宮前町 39　宮コ-23 清水沢コミュニティーゲート内 担当：今井　携帯電話　090-2874-7000

三菱大夕張鉄道保存会について

昭和６２(1987)年７月、三菱石炭鉱業鉄道（三菱石炭鉱業株式会社南大夕張鉱業所鉄道課）として三菱鉱業大夕張鉄道時代から夕張市大夕張鹿島、南部またその沿線の炭鉱から産出された石炭や林材、また住民の足となっていた鉄道が炭鉱会社の合理化で廃線となり南大夕張駅跡地に遺されたラッセル車、客車、セキ車などは一時期個人に譲渡され、ライダーハウスなどに活用されていたが、個人が高齢のために車両を夕張市に再譲渡。

しかしながら譲渡された車両群はほぼ手付かずのまま放置。荒れ果てた状態になるのには時間はかからなかった。さらには平成１１(1999)年の春に屋根上積雪のため客車１両が倒壊の危機となり、夕張市南部地区の地元有志、元住民、元鉄道職員、鉄道ファンが集結。シューパロ塾を結成。町おこしのための学習団体としながらも南大夕張駅跡地の車両群の補修を始め、車両を修復保存するための専門団体を派生させたのが三菱大夕張鉄道保存会です。

以来、所有者の夕張市と協議しながら車両の修復・保存活動とともに夕張の鉄道や炭鉱の歴史を研鑽、広報する活動を主軸としている団体ですが、相談を受けることに依り創会以来蓄積した修復技術を他の鉄道車両保存団体に提供することも行っています。

（昨年度の作業の様子）

（技術支援している長沼町の夕鉄２５号機）

今年度の活動報告

今年度も例年に引き続き新型コロナウィルス蔓延拡大防止の観点から活動を大幅に縮小し、夏季間の毎月の補修日は主だった世話役が主体となり、夕張市の公園となっている保存地の草刈りを主体に保存車両の補塗装にとどまる。例年９月に催行している「汽車フェスタ」に於いても新型コロナウィルス非常事態宣言期間中で、地元の皆さんの脅威になる可能性も考えられ、今年度も未催行としました。

他団体支援事業としては、例年長沼町・長沼町青年団体協議会を支援し長沼町コミュニティー公園に保存されている夕張鉄道２５号機の整備支援を行ってきましたが、やはり新型コロナウィルス非常事態宣言により中止としました。

夕張市南部の南大夕張駅跡地の保存車両の一般公開は１１月６日迄です。

団体名	特定非営利活動法人 オホーツク鉄道歴史保存会	〒090-0817　北海道北見市常盤町 2-4-52 Tel：090-9524-9315　Fax：0157-31-0373 URL： Email：asuoho-lab@cap.ocn.ne.jp 担当者：理事長　長南進一

《本用紙の範囲内で、活動報告をご自由にお書きください》

鉄道史のスペクタクルとドラマを伝え遺す

かつてオホーツクは、明治４４年の網走線開通に始まり、国鉄、森林鉄道、鉱山軌道、植民軌道など 25 の鉄道・軌道が走る鉄道王国でした。鉄道は文字通りオホーツクの開拓と近代化の牽引車であり、今日のオホーツクを形づくる礎となりました。

オホーツクの鉄道はその建設に様々な苦難や悲劇を伴った一方で、人々の日常生活にも深くかかわりました。オホーツクの鉄道の歴史を伝え遺すことはこれに関わった人々のスペクタクルと悲喜交々のドラマを蘇らせることに他なりません。その遺産と記憶を未来へと繋げるために、私達はＮＰＯ法人を設立しました。北見市の「丹尾遺産車両」を譲受け、その修復保存と公開を行うとともに、オホーツクを走り回った様々な鉄道と鉄道に支えられた産業、生活、文化等の郷土史の記録や遺産を発掘、保存、公開を行います。

私達が行うこと①：丹尾遺産車両の補修・保存・公開

「丹尾遺産車両」は故丹尾一男氏が収集した国鉄車両７台から構成されます。キ１００のラッセル車は現役時代にオホーツク各地で活躍し、キハ２７は石北線の急行列車として使用され、スユ１５は型式として現存する全国ただ１両の貴重な郵便護送車です。

いずれの車両も塗装剥がれや腐食が進み、大規模修繕とその後の経常的な保守が必要です。大規模修繕は市民寄付とクラウドファンディングにより資金を調達し、経常的保守のための資金を得るために、キハ２７の喫茶レストラン化、スユ１５と緩急車は資料博物の展示車両として活用します。

私達が行うこと②：森林鉄道他の鉄道資料の収集・公開

かつて、オホーツクには７つの森林鉄道と８つの軌道がありました。とりわけ森林鉄道は国鉄に繋がり、駅の周辺には巨大な貯木場が置かれました。オホーツクの町々は林業産業とともに大きな繁栄の時代を謳歌しました。この他鴻紋軌道、斜里殖民軌道、小清水鉄道など鉱山開発や内陸部の農業開発などに活躍した諸軌道の歴史資料の発掘や調査、収集、公開をおこないます。

私たちはその最初の取組みとして、陸別町に放置されている森林鉄道客車の廃車両を移動し、復元公開を行います。

私達が行うこと③：鉄道・近代化遺産観光のセンター

私たちは「丹尾遺産車両」展示場を拠点として、オホーツク各地にある鉄道遺産、産業遺産など近代化遺産に関する情報提供とガイド事業、更にはツアーの企画やプロモーションを行いオホーツクの鉄道・近代化遺産観光のセンターとして取組みます。

私達がめざすこと：オホーツク鉄道歴史記念館の開設

私たちが最終的にめざすものは「オホーツク鉄道歴史記念館」（仮称）の開設です。北海道遺産である「ピアソン記念館」がオホーツクの近代化を文化の視点から、「ハッカ記念館」が産業の視点から伝えるのに対して、「オホーツク鉄道歴史記念館」は近代化を人々の営みのスペクタクルとドラマとして伝えます。この３つの記念館が揃うことで、人々にオホーツクの開拓と近代化の実相、真の姿を見せることが可能になります。

団体名	北海道旅客鉄道株式会社	〒060-8644　札幌市中央区北 11 条西 15 丁目 1-1 Tel：011-700-5785　　Fax：011-700-5786 URL：https://www.jrhokkaido.co.jp/ Email：matuda-m@jrhokkaido.co.jp 担当者：運輸部運用課企画Ｇ　松田　道規

「ＳＬ冬の湿原号」ＳＬ全般検査と客車リニューアルの実施

「ＳＬ冬の湿原号」は、道東観光の冬の風物詩として 20 年以上釧網線で運行しており、地域の皆様からご支援いただいております。

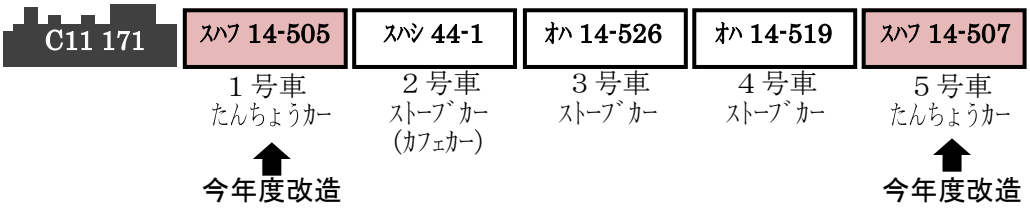
新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、ＳＬ冬の湿原号のご利用は減少し厳しい状況にありますが、運行継続については地域の皆様から強いご要望をいただいているところです。当社としても道内唯一のＳＬ観光列車を守り、より魅力を楽しんでいただくため、ＳＬ全般検査、客車リニューアルを実施します。

●実施内容

○C11 171 号の全般検査を実施します。
（2021 年 9 月末現在、全般検査実施中）

○ＳＬが持つ「ノスタルジー」や「レトロ」感をベースに、内装には丹頂やエゾシカのシルエットをあしらうなど、北海道ならではのＳＬの旅を楽しんでいただける工夫をしています。

（リニューアル後）



たんちょうカー	雄大な釧路湿原や丹頂を間近に感じることができる車両
ストーブカー	ダルマストーブを設置してＳＬ列車の旅の雰囲気を満喫できる車両

往復で異なる楽しみ方ができる編成

○2021 年度は「たんちょうカー」のリニューアルを実施します。
・川側にカウンター席、山側にボックス席を設置し、釧路川や湿原など川側の眺望を楽しめるレイアウト（山側ボックス席を高床化）とします。
・機器室に隣接する通路の窓を大型化し展望通路を設置します。
・アクセントとなる座席の色調は、「丹頂の赤」をヒントにレトロ感ある臙脂色、壁面は雪原に点在する木々をイメージした木目調とします。
・木材を使用した暖かみがあり高級感を感じる室内にリニューアルします。
・座席には、抗菌・抗ウイルス生地を使用します。

たんちょうカー客室イメージ

○新型コロナウイルス感染症対策としてテーブルへのパーティション設置などを昨年度に引き続き実施します。

展望通路イメージ

○2022 年度に「ストーブカー」のリニューアルなどを実施します。
・ノスタルジーを感じるどこか懐かしい室内にリニューアルします。
・内装の変更を実施します。
（腰掛生地、壁面、カーテン、テーブル等のリフレッシュ）
・２号車（カフェカー）については、現状のイメージを踏襲しつつ、内装のリフレッシュを実施します。
・トイレの洋式化（１、３、５号車）を行います。
・大型荷物置場の設置（１、３、５号車）を行います。

ストーブカー2 号車
（カフェカー）客室イメージ

詳しくは、当社 HP(https://www.jrhokkaido.co.jp/)もご覧ください。

団体名	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会	〒　039-2512 青森県上北郡七戸町笊田５４－２ Tel：080-3201-4158　　Fax： URL：http://www.ogaemon.com Email： 担当者：星野

平成 9 年運転休止、平成 14 年に廃線となった南部縦貫鉄道の車輌、富士重工製のレールバスキハ 101・102 の 2 輌とキハ 104 ディーゼルカー1 輌、機関車 3 輌（D451、DC251、DB11）の合わせて 6 輌を旧七戸駅構内にて保存活動を行っています。

毎年ゴールデンウィークにレールバス体験乗車イベントを開催し、秋には夕暮れ撮影会と称して日中から日没後まで撮影会を開催しております。

また、所有者である七戸町と連携して町内の子ども向けイベントを開催し、かつてこの地に南部縦貫鉄道が走っていた事を伝えるイベントを開催しています。

2021 年は新型コロナの影響により町内の子供向けイベントを開催するにとどまり、メンバーも訪問を自粛するなど活動を大幅に縮小しております。

2022 年は南部縦貫鉄道の開業から 60 周年、運転休止から 25 周年を迎える年となることから、記念イベント開催を考えております。

機関庫の老朽化など課題も多くあり、今後も永く保存を継続していくためにクラウドファンディングなども含めた様々な手段を模索しておりますのでその際はご協力をお願いします。

団体名　七百レールファンクラブ
https://www.facebook.com/pages/七百レールファンクラブ/1014675581876815

七百検修庫：〒033-0071
青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

七百ﾚｰﾙﾌｧﾝｸﾗﾌﾞ会長自宅：〒033-0071
青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2
会長：斎藤正

施設名　七百鉄道記念館

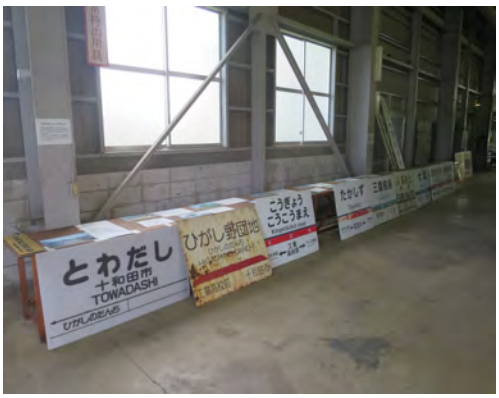
七百鉄道記念館 事務取扱方
住所：〒336-0926
埼玉県さいたま市緑区東浦和4-23-4-101
氏名：野田　悟
連絡先：090-6568-2629（開館時以外は通じません）
メール：shichihyakurfc@yahoo.co.jp

平成２４年３月３１日限りで廃線となった十和田観光電鉄線の旧：七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧：七百駅周辺の住民が中心となり「七百レールファンクラブ」発足
平成26年に旧：七百検修庫を中心とする土地・建物と車両６両を十和田観光電鉄から会員が購入
平成27年 5月31日　「七百鉄道記念館」として第一回　一般公開を実施
（この間、年２回＝春・秋のペースで一般公開を実施致しました）
令和元年10月20日　第十回　一般公開を実施

令和２年度～３年度は「新型コロナウィルス感染が続いている状況下では不特定多数を対象とした公開は難しい」という意見が会員の多数を占めたことから、一般公開は見送りとさせて戴きました。但し、本年１０月３０日にＪＲ北海道の募集型企画旅行「北海道新幹線で行く　青函鉄道漬けの旅」参加者への公開を行いました。

【保存車両】
ED402
ED301
モハ3401
モハ3603
トラ301
トラ302



【館内展示物】
駅名板
看板類
方向幕
ヘッドマーク
標識類
乗車券類
など

２年続けて一般公開が行えず、レールファンクラブとしての活動も施設の保全面を中心とした内容に留まっておりますが、来年の2022年は春に廃線10年、秋に開通100年という節目の年を迎えることから、一般公開再開に向けて引き続き活動して参りたいと考えております。

※ 個人連絡先（野田）
自宅：048-876-0102
自宅PC：IZD01662@nifty.com
個人携帯：090-2520-2629
個人携帯アドレス：satorunoda@docomo.ne.jp

団体名	小坂鉄道保存会	連絡先（小坂鉄道レールパーク　気付） 〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山字古川20-9 Tel 0186-25-8890　Fax 0186-29-2002

小坂町かぶきん

アフターコロナへ、いざスタート!

今年６月に結成９年目を迎えた小坂鉄道保存会は、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらないことから今年度も活動を自粛しています。小坂鉄道レールパークは感染防止に留意しながらの営業でしたが、〝ブルートレインあけぼの〟の宿泊営業は中止となり、その勇姿を見ることはできませんでした。

そんな寂しい状況の中、当保存会が国土交通省主唱の「手づくり郷土賞」大賞部門に、小坂町とともに選定されたことはたいへん嬉しいことでした。保存会では、小坂町と指定管理者である㈱小坂まちづくりとの三人四脚で、小坂鉄道レールパークと〝明治百年通り〟の磨き上げに取り組んだことが、皆様から認められての受賞であると自負しています。

また、JR東日本㈱様が、JREポイントによる「地域応援プログラム」で〝旧小坂鉄道の近代化遺産・産業遺産の保存〟に対する当会への寄付を募集してくださったことも、特筆すべきことです。今年９月末までの募集でしたが、皆様からたいへん多くのご支援をいただくことができました。皆様に心から感謝申し上げますとともに、産業遺産としての車両修復に役立てることをお約束いたします。

私たちは、小坂鉄道をはじめとする〝鉄道〟の楽しみを皆様と共有するため、アフターコロナに向けて取り組みを進めてまいりますので、今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

▲小坂町長・副町長さんとともに、手づくり郷土賞大賞部門受賞を記念して

▲仕上げの日を待つ有蓋貨車ワフ２８００１

◂この楽しい日々の復活を急ぎたい

▲ 小坂町のご支援により設置された新詰所。室内のレイアウトには千葉会長のセンスが光る！！

団体名	くりはら田園鉄道公園 KURIDEN MUSEUM & RAIL PARK	連絡先：くりはら田園鉄道公園 〒989-5501 宮城県栗原市若柳字川北塚ノ根 17-1 TEL:0228-24-7961 FAX:0228-24-7962 MAIL:kuridenrailpark@gmail.com

令和３年度から指定管理制度に移行しました（指定管理者：NPO 法人 Azuma-re)

くりはら田園鉄道公園は、令和３年度から指定管理制度に移行し民間法人にて運営しています。スタッフは、市直営時代からほぼ同じメンバーとなります。今後ともよろしくお願いいたします。

TOPIC ① 公園内運転士を正式採用。駅舎・動態保存車両の活用を拡大。

これまで車両を動かす際は任意団体のくりでん保存愛好会へ認定運転士派遣依頼をしてきましたが、この度、運営スタッフに公園内運転士を正式採用（2021.7.1 採用）させていただきました。このことにより、**①日常的な車両運行②乗車会・運転体験などのイベントの開催増③メディア対応時の動態保存車両のアピール④車両点検や保線作業**などが可能になり、ミュージアムの魅力発信や保存活用を加速させています。

運転士採用は地元テレビ・新聞でも話題に

TOPIC ② 新型コロナウイルス感染拡大下による様々な対応

※緊急事態宣言発令により 2021.8.20 ー 9.10 まで施設全体を休館、イベントの中止がありました。

１. 乗車会イベントが２年ぶりに復活しました。

対応：車両を２両編成とし、各車両の乗車率は７割に制限。窓開けによる換気と、降車ごと車内アルコール消毒を実施。また会場となる若柳駅入り口では体温測定のスタッフ配置と、イベント参加者への連絡先記入を実施。

乗車体験を再開。10 形でも実施。

２. 運転体験を２年ぶりに再開。完全個別化へ。

対応：これまで団体講習、団体実習を行なってきたくりでん運転体験ですが、三密対策のため１時間ごとの完全個別指導へシフトチェンジ。その結果、個人の運転時間の大幅確保（１名３０分）と個別の要望（運転の様子を撮影、家族同伴など）に対応でき満足度が上昇。年間席数完売の人気コンテンツとなりました。

運転体験の様子（地元新聞社取材の様子）

TOPIC ③ 車両の修繕、保線作業報告

運転士を採用したことにより、いままで手薄だった駅舎および車両、構内の保線作業が活発化しています。OB 指導の元、レールや枕木の状態調査を実施、これまで見えてこなかった経年劣化による老朽化が明らかになり、修繕に追われています。今後の課題として、OB からの技術継承と重作業の外部委託先（および保線資材の仕入れ先）の開拓を早急に解決する必要があります。今後も安全第一で鉄道遺構の保存活用を実施していきます。

KD10 形の制輪子交換

若柳駅で保存される車両（若柳駅構内に 10 両、ミュージアムに 4 両保存しています。）※内動態保存は 5 両

OB による保線作業の様子

くりでんミュージアムサポーターズを設立！くりでんを後世に残すための活動を応援してくれる方、および企業を募集しています。詳しくは WEB サイトへ。
ミュージアム独自の WEB サイト開設！ WEB ショップもオープンしました。 くりでん WIX 検索

団体名	みちのく鉄道応援団	〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3 仙台キャピタルタワー Tel：022-221-6067　Fax：022-261-1795 URL： Email：t-kusaka@livit.jregroup.ne.jp 担当者：事務局　JR 東総合サービス内日下敏彦

＜新規加入＞みちのく鉄道応援団の御紹介

令和 3 年 11 月 25 日
みちのく鉄道応援団

米山淳一様の御紹介により去る 8 月入会致しました。どうか宜しくお願い致します。

1．概要

宮城県を中心として東北地方に存在する鉄道資料の保存活動等を行う団体。平成 15 年東日本旅客鉄道仙台支社長清水愼一氏と元東北大学総長西澤潤一氏の唱導により創立。

創　　立：　平成 15 年 9 月 16 日
初代　会長：　西澤 潤一　　東北大学名誉教授・元東北大学総長
二代現会長：　鈴木 祐太郎　仙台ライオンビル社長
顧　　問：　一力 雅彦　　河北新報社社長
　　藤崎 三郎助　藤崎社長
　　米山 淳一　　日本鉄道保存協会事務局長
事　務　局：　JR 東日本東北総合サービス内（上記）

2．目的

陸上交通機関として優れた特性を有する鉄道の発展を支援し、また鉄道に関わる貴重な資料を後世に正しく継承すること（設立趣意書より）

3．会員

個人、団体、法人等、合計 68 名（令和 3 年 9 月現在）

4．組織

1）鉄道遺産部門・・・仙山線交流電化試験関連施設の保存ー試作交流電気機関車も
2）地域鉄道部門・・・地方交通線の調査及び支援
3）保存実物部門・・・西公園 C60 形 1 号蒸気機関車の保全等　（下写真）
4）写真資料部門・・・仙台地区の各鉄道路線の歴史、近代化の推移等
5）模型部門・・・・・1/80 等鉄道模型の運転会及び展示

5．主な活動内容

・会報「みちのく」の発行・・・現在第 8 号まで及び別冊発行
・鉄道資料の調査及び収集・・・仙山線交流電化試験の関連資料
・展示会等の実施・・・作並観光交流館ラサンタでの仙山線展示、試作交流電気機関車 ED91 の勉強会
・調査見学・・・仙石線復旧事業の調査見学、近江鉄道及び長浜鉄道歴史スクエアの調査見学
・関連団体との共同活動：
東北福祉大鉄道交流ステーション・・・企画展、写真展、講演会、模型館模型列車の運転と説明
関山街道フォーラム・・・講演会等の開催
JR 東日本・・・仙台駅記念行事での模型走行展示（1/80、16.5mm）
・仙台市蒸気機関車 C601 保存会・・・年二回の掃除他
・報道機関への情報提供・・・河北新報記事「仙台色」、「ED91」

写真　東北特急 60 周年 平成 30 年 10 月 佐藤茂撮影

（文責：代表幹事　佐藤　茂）

団体名	真岡線ＳＬ運行協議会	〒　321-4415　栃木県真岡市下籠谷 4412 番地 Tel：0285-82-9151　Fax：0285-82-9152 URL：https://www.moka-railway.co.jp/ Email：furusatoshinkou@hagakouiki.jp 担当者：間宵　嘉明

▲ＳＬもおか号　「Ｃ１２　６６」

「ＳＬもおか」運行概要

【運 行 日】　毎週土曜日・日曜日（年末年始を除く）

【運行区間】　真岡鐵道　下館駅～茂木駅（４１．９キロ）

【運行時間】　下り　下館駅１０：３５発～茂木駅１２：０６着
上り　茂木駅１４：２６発～下館駅１５：５６着

【運行車両】　ＳＬ　Ｃ１２形６６号
ＰＣ　５０系　オハ２両、オハフ１両
ＤＬ　ＤＥ１０　１５３５　１両

【ＳＬもおか　近況報告】

◆真岡線全線開通１００周年記念「◎（まるまる）もーてつごはん」

真岡線は令和２年１２月１５日をもって全線開通から満１００周年を迎えることができました。真岡鐵道と真岡線ＳＬ運行協議会では１００周年を感謝し、記念式典の開催と記念事業として新しい駅弁「◎もーてつごはん」の開発・販売を行いました。「◎もーてつごはん」はＳＬもおか車内でのみ購入できます。（※現在はコロナ対策のため販売休止中）

【名前の由来】
・沿線２市４町の融和を表す「○」と沿線の特産品が「丸」ごと使用されていることを組み合わせて「◎(まるまる)」
・メインの「牛(もー)」と「真(もー)鐵」のダジャレで「もーてつ」

【メニュー（素材：市町）】
・ハンバーグ（栃の木黒牛：市貝町）、
・ハンバーグ用特製梨ソース（梨：筑西市、芳賀町）
・菜の花ごはん（コシヒカリ、菜の花：筑西市）
・ゆず大根（ゆず：茂木町）
・ナムル（にら、もやし：真岡市）
・恋するいちご（いちご：真岡市）
・箸置き（益子焼：益子町）

▲◎もーてつごはん

◆ＳＬ「Ｃ１２６６」米寿記念号の運行について

・ＳＬもおかを牽引する蒸気機関車Ｃ１２６６号は、令和３年１１月末をもって製造から８８周年を迎えます。これに合わせ、真岡鐵道と真岡線 SL 運行協議会では、１１月２７日(土)・２８日(日)のＳＬ運行時に「記念ヘッドマーク」の掲出や車内イベントの実施を計画しております。

◀記念ヘッドマーク

団体名	一般社団法人 **あしおトロッコ館** （旧 NPO 足尾歴史館トロッコ部）	〒321-1523　栃木県日光市足尾町松原 2825 （古河足尾歴史館内） URL：https://www.furukawakk.co.jp/ashio Email：sgq00426@nifty.com 担当者：総務担当　岡本憲之

▲年三回の一般公開は休止中ですが、わたらせ渓谷鐵道の足尾駅貨物ホーム付近に動態保存されています当会管理の入換機関車と貨車の整備は続いております。今年も、足尾駅イルミネーションは開催します。

▲古河足尾歴史館 2 階にあるあしおトロッコ館室内展示場では、メンバーがフルスクラッチした各種の鉄道模型とレイアウト＆ジオラマがたくさん展示されています。

▲元井笠鉄道ドイツ・コッペル社製 7 号蒸気機関車が一昨年やってきましたが、元々の同僚であった元井笠鉄道ホハ 6 とは 60 年ぶりの再会となります。左に写るのは、あしおトロッコ館の主役ガソリンカー。

2020（令和 2）年 4 月から NPO 足尾歴史館は古河機械金属株式会社が運営することになり、**古河足尾歴史館**となりました。同館の鉄道保存ボランティア団体であったトロッコ部は独立し**一般社団法人あしおトロッコ館**となりましたが、いままで通りに古河足尾歴史館とわたらせ渓谷鐵道の足尾駅での活動は続いております。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント・特別展関係は昨年から休止となっております。

【一社　あしおトロッコ館の活動状況】

その 1　古河足尾歴史館　野外

足尾ガソリン軌道歴史館線とトロッコ展示場

●イベントはありませんが、毎月第一土・日のガソリンカー運行は続けております。※古河足尾歴史館臨時休館時は中止。

その 2　古河足尾歴史館 2 階

あしおトロッコ館室内展示場

●古河足尾歴史館開館日は公開。

その 3　わたらせ渓谷鐵道　足尾駅

動態保存車両(軌間 1067mm)

●一般公開は休止中ですが、整備は継続中。12 月からのイルミネーションは行われます。

【元井笠鉄道ホハ 6 客車の移動と保存】

今年の 5 月、元井笠鉄道ホハ 6（旧西武鉄道 32 号）軽便鉄道用の客車が「あしおトロッコ館」に保存車として新たに加わりました。

この木造客車、いまから 100 年以上もむかしの 1913（大正 2）年に愛知県の日本車輌で製造され、岡山県の井笠鉄道で活躍しました。

同鉄道廃止後、1972（昭和 47）年に西武鉄道へと譲渡され、同社 初代山口線（通称おとぎ電車）で使われていましたが、同線リニューアルにともない廃車され、西武園ゆうえんち内のレストランに活用されることになりました。やがて同店も休店となり、いまから 10 年前に旧けいてつ協会（**現在は一般社団法人あしおトロッコ館に吸収合併**）に譲渡されました。長らく、この車両を預かって頂いておりました栃木県塩谷町のバリアフリー鉄道農園「風だより」が閉店することになり、ホームグランドである（一社）あしおトロッコ館（古河足尾歴史館野外展示場）に同地を所有する古河機械金属㈱のご理解のもと移動するはこびとなりました。なお、現在は修理資金が集まるまで、シートで包んでおります。

団体名	鹿島鉄道保存会 ＜鹿島鉄道記念館＞	〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階 ㈱バレア内 TEL 03-5802-2755　FAX 03-3818-2700 URL https://www.facebook.com/kashitetsu E-mail info@kashitetsu.com　代表者：加藤

鹿島鉄道保存会は、平成19年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線（石岡～鉾田間27．2km）の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館（普段は非公開）の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志約 20 名で構成され、年齢や職業も多岐に渡り「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。

【保存車両】
キハ７１４（昭和２８年新潟鉄工所　元夕張鉄道キハ２５１）
ＫＲ-５０１（平成元年新潟鉄工所　鹿島鉄道自社発注車）
キハ４３１（昭和３２年東急車輌　元加越能鉄道キハ１２５）
【保存建物】
玉里駅上りホーム待合室
ヘッドマーク、駅名板、信号機その他多くの鹿島鉄道関連グッズ、存続運動資料等を収蔵
【活動報告】
平成２１年３月の記念館完成後、非定期で鉄道ファン向けの一般公開（事前予約制）、見学団体受け入れや自治体とのイベント共催による特別公開を実施しています。令和２年１１月には茨城県空港対策課との協働により、茨城空港ビルで鹿島鉄道写真展を開催するとともに、鹿島鉄道記念館の特別公開を実施し、感染防止対策を徹底したうえで１６０名の見学者を受け入れました。
本年は新型コロナウイルスの影響で再び活動休止していますが、令和４年３月に廃線１５周年を迎えることから、記念行事を開催したいと考えています。

茨城空港ビルで開催した鹿島鉄道写真展（R2.11.7～R2.11.29）

鹿島鉄道記念館特別公開（R2.11.22）

団体名

鉾田駅保存会

〒311-1528　茨城県鉾田市当間 220 ほっとパーク鉾田内

[事務局]〒310-0001 茨城県水戸市上河内町 162
Tel /Fax：029-239-6735　(携帯：090-4387-8455)
URL：https://hokotaeki.jp/
Email：hokota-station@rail.nifty.jp
担当者：川津　重夫（事務局(理事)）

キハ６０１とＫＲ－５０５の保存活動をしています

当地では珍しい雪のほっとパーク鉾田展示線（2011-01-16）

２００７年 3 月末で廃止になった鹿島鉄道の２両の気動車(キハ６０１・ＫＲ－５０５)の保存活動を行っています。

キハ６０１は昭和１１(1936)年川崎車輌製のキハ 42032（後のキハ０７）で、鹿島鉄道廃線時には全国で最古の営業用気動車でした。2024 年に米寿を迎えます。

鹿島鉄道の開業は大正１３(1924)年であり、開業１００周年も 2024 年となるため、祝賀イベントの実施を検討しています。(鉾田までの全線開業は昭和４(1929)年)

ＫＲ－５０５は平成４(1992)年新潟鉄工製の鹿島鉄道独自の気動車で来年 2022 年に製造 30 年となります。

当保存会は、２両が展示されている、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、月例の定期車両公開イベントと、車両の保全・補修作業を実施しています。

保存活動を行っている鹿島鉄道の気動車、キハ６０１とＫＲ－５０５は廃線後の 2008 年 1 月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。

当初、鉾田駅保存会は賃借した鉾田駅跡地において２両の気動車の保存活動をしていました。

その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、２両を保存することになり、当会は２両の気動車を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は 2009 年 12 月 24 日に、『ほっとパーク鉾田』に移送されました。2010 年度より、現在地での車両公開イベントを開始しています。

2011 年の東日本大震災で路盤の液状化により道床の破壊と車両の傾斜・床下機器損傷等の被害を受けました。車輌を一時的に移動して道床の復旧が行われ、2011 年 12 月に元の道床に復帰し、2012 年 3 月より当会は公開イベントを再開しました。

以後 4～12 月の第 4 日曜日の定期車両公開イベントを継続実施してきました。並行して天候の比較的安定した 12～3 月に全塗装等の大規模補修作業を行い、その他の保守作業は随時実施してきました。

2020･2021 年度は新型コロナウィルスの感染防止対応のため、周囲の状況を熟慮しつつ、条件の整った場合は公開を実施しています。

定期公開では活動の周知と、鹿島鉄道を知らない世代への記憶継承を目的に下記の企画を行っています。

（１）　鹿島鉄道関連資料・書籍の展示
（２）　保存活動内容の展示・広報
（３）　ＫＲ－５０５車内でのプラレール遊び
（４）　キハ６０１車内での鉄道模型展示・運転
　　（鉾田駅・常陸小川駅のジオラマ等）
（５）　５インチ乗用鉄道の体験乗車
　　（１６ｍ×１２ｍオーバルほか）

また、鉾田市や商工会主催の『鉾田うまかっぺフェスタ』『ほこたマラソン』『鉾田花火大会』『ほこたいっぴんマルシェ』や、『石岡市商工祭』などの地域行事に参加・協力し、広報活動を行っています。現在は地域行事がコロナ対応のため縮小傾向であることから、酷暑期と冬季を除く月１度、小美玉市の茨城空港そばの『空のえきそ・ら・ら』での出張広報活動を実施しています。

今年度は５月から車両公開を開始しました。７月公開では導入した大容量スイッチング電源で、キハ６０１の電装系を生かし前照灯・室内灯の点灯を行いました。しかし、８月の夏季公開・定期公開、９月の定期公開はコロナ対応のため中止せざるを得ませんでした。10 月より定期公開を再開し 10/31・11/28 に実施する予定です。

廃線から１４年が経過し、毎年補修・塗装を行っているとはいえ、車両の劣化も進んでいます。

ただ錆びを落とし塗装をするだけでは凌げない箇所も多々あり、技術力（塗装・防錆・溶接等）の向上と補修用機器（溶接機等）の導入、そして人員の強化が変わらぬ大きな課題です。

前照灯・室内灯を点灯したキハ６０１

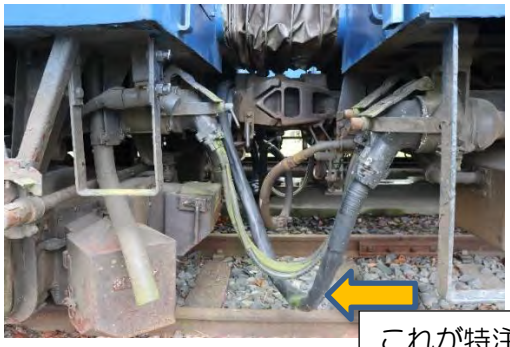
団体名	ザ・ヒロサワ・シティ （レールパーク）	〒308-0811 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ 広沢商事株式会社　営業部　内 Tel：0296-45-5601　　Fax: 0296-45-5602 URL：http://shimodate.jp/rail_top.html Email：honten@hirosawa-shoji.co.jp 担当者: 松本、野口

◎北斗星車両の宿泊施設への改造作業が進む！

●440V を給電できる大型の発電機を購入し、試験通電を実施中

●オロハネ 24- 551 のA 個室内の美しい間接照明も再現できました。また、空調は、現役時代の AU13、AU77 が往時をしのばせる駆動音を響かせ稼働しています。

●さながら「上野駅」１３番線停車中を再現できました。



●今回の作業での最大の難関は、オハ 25-503 が片渡りにも拘わらず、客室からの展望を優先する関係からジャンパ栓の位置を関係なく配置したことから、編成全体を一括制御できない車両配置になっていたことです。

●そこで、左の写真のような全長 3.5m にも及ぶ「お化けジャンパ」を制作し対応することになりました。

●間もなく、展示してある北斗星車両は「宿泊施設」として生まれ変わります。皆様のご利用をお待ちしております。

これが特注で製作した「お化けジャンパ」一見の価値あり

◎「マリンライナーはまなす」を利用しての、茨城県内４私鉄の現役運転士による「運転技術対決」を実施！

●茨城県内の私鉄についても、沿線人口の減少や超高齢化、さらに新型コロナウイルス感染症の拡大により厳しい経営環境が続いており、県内私鉄で連携企画を行うことで、鉄道に興味を持ち、鉄道を利用して旅行する「きっかけ」づくりに取り組んでいます。

●こうした中で、９月 27 日には、茨城県の後援のもと、鹿島臨海鉄道、ひたちなか海浜鉄道、関東鉄道、真岡鐵道の４社の現役運転士による「運転技術対決」が、ザ・ヒロサワ・シティ（レールパーク）の運転シミュレータで実施されました。当日は、非常に盛り上がり、夜遅くまで撮影が続けられました。

●なお、当日の白熱した「対決」の模様は YouTube 動画にて、真岡鐵道のアカウントから 12 月頃配信予定です。

【特別付録】

本年９月９日から開始しました「乗り物・テーマパーク」のネーミング募集は、お陰様を持ちまして 3,500 件を超えるご応募を頂くことが出来ました。今後、５名の審査委員のご意見をもとに 12 月を目途にネーミング決定作業を進めて参ります。

団体名	一般財団法人　碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら	〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16 Tel：027-380-4163　FAX：027-380-4111 URL：https://www.usuitouge.com/bunkamura/ Email：bunkamura@usuitouge.com 担当者：事務局長　　小﨑　正人

碓氷峠鉄道文化むらのある松井田町は群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパＥＦ６３形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム３．５個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を碓氷峠越えの中山道案で結ぶと決定されましたが、明治１９年にこの峠が難関のため東海道本線経由に変更された経緯のある所です。しかし、明治２６年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、１１．２ｋｍで標高差５５３ｍもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治４５年にこれまた日本初の幹線電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成９年、長野オリンピックの開催を控えて、同年１０月１日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として１０４年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、旧松井田町が群馬県・ＪＲ東日本の協力により平成１１年４月にオープンした鉄道の広場です。今年で開園２１年目を迎えました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早２４年が経とうとしており、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第１号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの２．６ｋｍを３月～１１月の間の土日祝日と８月のお盆過ぎまで、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のＥＦ６３形電気機関車の運転体験も２，８２０人が受講されています。２０２０年度は５８名の受講者（内、女性１名）があり、のべ２，７９５回の体験を楽しまれました。また、通算５００回以上運転された方が６名おります。２０２１年度も引き続き多くのお客様が受講され、運転体験を楽しまれています。

園内奥に留置されている 189 系あさま号（JR 色）の塗装が行われ、今後はイベント等で車内公開を行っていく予定ですが、屋外に展示されている車両や動態保存しているＥＦ６３形電気機関車の保存方法や修繕方法など、貴重な車両をどのように後世に残していくかが課題となっています。

運転体験で使用している EF63 形電気機関車

トロッコ列車シェルパくん

屋外に展示されている車両

車両塗装を行った 189 系あさま号

団体名	一般社団法人 電鉄文化保存会	152-0023 東京都目黒区八雲 3-4-9 Tel：080-3013-5871(日暮携帯) URL：http://snowy-saito-7755.zombie.jp/ Email：interurbanmuseum.tokyo@gmail.com 担当者：岩崎・日暮

当会は、群馬県前橋市赤城山麓にて、
元東京急行電鉄デハ 3450 形 3499・デハ 5000 形 5048 及び 5055 を保存し、
後世へ伝承するべく活動を行っています。

■環境整備を行いました。

これまで車両整備以前の問題としての草刈りにかかる労力、また柵などがごく簡易なもので防犯上の問題も多く抱えていましたが、このたび地主様の協力のもと雑草繁殖を抑える土壌整備と整地、敷地内の柵設置をおこないました。

■5000 系電車の塗膜剥離作業を行っています。

保有 3 両すべてについて、50～60 年程度経過した古い塗膜やパテの上に塗り重ねられており、再塗装しても短期間での劣化が懸念されます。
このため、すべての塗装を順次剥離し、板金修理を行ったうえで再塗装することとしました。
環境整備を踏まえて足場などもより取扱いやすい組立足場を用意し、
5000 系電車の前面部分やからっ風街道沿いの側面から順次進めています。
5000 系からは竣工当時のもえぎ色の塗膜も出てきております。

■クラウドファンディング実施しています！

今後の活動をより安定的に行うため、クラウドファンディング事業を行っています。
みなさまのご支援をよろしくお願いいたします！
https://jpru.jp/projects/view/23

団体名	**日本工業大学 工業技術博物館**	〒　345-8501 Tel：0480-34-4111　Fax：0480-33-7570 URL：http://www.nit.ac.jp/ Email：museum@nit.ac.jp 担当者：五月女浩樹

現在わが国の工業技術が世界最高レベルなのは先人達が懸命な努力をし続けてきた賜物であり、その経緯と成果に触れつつ技術発展を図る**『温故知新』**が工業技術の教育・研究開発には不可欠である。
そこで、学園創立80周年記念事業の一つとして**1987**年度に開設された当博物館では、国内外の先人達の成果である機械等を調査・収集・保存・展示することで、技術史研究の場を提供するとともに工業技術の教育・研究・啓蒙に貢献することを目的として、下記の諸活動を行っている。

１）わが国の経済発展に貢献した工作機械を主体に、機械機器類を調査・収集し、整理して保存・展示を行う。
２）常設展示とは別に、年１回，中核である工作機械や身近な工業製品の技術をテーマとした特別展を開催する。
３）国内外の技術の変遷を理解する上で必要な書籍・文献・関連資料（図面等）の収集を行い、整理して保存する。
４）技術の変遷に関する記事、当博物館の活動、収蔵品の紹介などを掲載する『工業技術博物館ニュース』を発行する。

開設以来、収蔵品の数が年々増大するとともに質も向上してきており、現在、常設展示品だけで機械機器類大小合わせて500点以上に達している。特に約270台もの工作機械を保存展示し、そのうち約70％が動態保存であること、工場形式の展示も数点あること、機種別・年代順に展示し変遷が理解できることなどが、国内外の他の類似の博物館には無い大きな特長である。

生産機械以外では、国家プロジェクトで開発され世界最高効率を実証した大型ガスタービン、1891年に英国で製造され、長年わが国で活躍した**蒸気機関車2100形-2109号**、1919年に製造され、100年間にわたり箱根登山鉄道で活躍した**登山電車モハ1形103号**、2007年の学園創立100周年記念事業の一つとして調査・復元した**日野式２号飛行機**（レプリカ）なども展示している．蒸気機関車については，動態保存して、キャンパス内に敷設した軌道上で時折有火運転し，鉄道ファンだけでなく，多くの皆様に楽しんで頂いている。

製造後 130 年を迎える 2109 号蒸気機関車

蒸気機関車 2109 号関係の点検と整備についてボイラー性能検査と点検整備作業については
線路工事（2021 年 2 月 17 日～2 月 18 日）を行った
・枕木の交換 7 本
・踏切部（幅 9.4m）の軌道整備
・踏切板交換 16 本
また機関車の生誕 130 周年を記念する写真・資料展を 2022 年 3 月~4 月頃に開催すべく資料の公募などの準備を進めている。
運転については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運転席の見学を中止して 7/10 に行った。

屋根塗装工事中の箱根登山鉄道 103 号電車

箱根登山鉄道 103 号電車の点検と整備について
車内に雨漏りが発生したため、2021 年 3 月に車輌の屋根について、塗装作業による修復を行った。
現在のところ雨漏りは認められない。
そして、電車内の一般公開に向けて、車内展示物などの盗難防止を目的として防犯カメラを設置した。
巡回などと合わせた防犯対策に勤めている。
また、車内の展示物（中吊りなど）を保護することを目的としてデジタル化や複製の準備を進めている。

団体名	秩父鉄道株式会社	〒360－0033 Tel：048－523－3337　Fax：048－526－0551 URL：http://www.chichibu-railway.co.jp Email：syaryo@chichibu-railway.co.jp 担当者：木村　壮史

秩父鉄道
SL パレオエクスプレス

SL パレオエクスプレスは通年 3 月下旬から 12 月初めまで、土曜、祝祭日を中心に運行しております。C58－363 号機の全般検査も終了し、また秩父地方の大自然の中を四季折々の景色と共にＳＬの醍醐味を多くのお客様に楽しんで頂いております。

今年度は、冬期特別運行として、12 月 24～26 日、1 月 1～3 日、8～10 日の 9 日間運転いたします。

是非、皆様のご乗車をお待ちしております。

超平和バスターズトレイン（7501 編成）

秩父市と秩父アニメツーリズム実行員会と連携し、秩父鉄道フルラッピングトレイン第 4 弾となる『超平和バスターズトレイン』の運転を 2021 年 4 月 3 日（土）より開始しております。あの花が初めてテレビ放送されてから今年で 10 周年を迎えることを記念して実施し、「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」「心が叫びたがってるんだ。」「空の青さを知る人よ」のキャラクターや劇中画を全車両にラッピング。それぞれの作品の魅力を車両にぎゅっと詰め込み、外装・内装ともにアニメの世界観をお楽しみいただけます。

秩父にお越しの際には、是非こちらの編成にもご乗車下さいます様、お待ちしております。

団体名	東日本旅客鉄道株式会社 公益財団法人東日本鉄道文化財団	〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町 3 丁目 47 番 Tel：048-651-0088　Fax：048-651-0570 URL：http://www.railway-museum.jp/

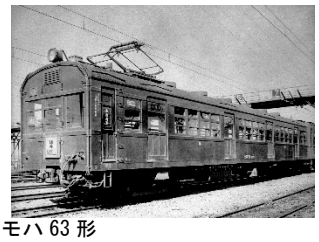
企画展「山手線展～やまのてせんが丸くなるまで～」を開催

〇首都圏を代表する鉄道路線であり、誰もが一度は乗ったことがある「山手線」をテーマとした企画展を開催します。
〇山手線の起こりから山手線の電化・環状化が進み、目まぐるしく輸送力が強化されていき現在に至るまでの歴史を紐解きます。

会期：2021 年 10 月 9 日（土）～2022 年 1 月 31 日（月）

・新宿・渋谷・池袋といったターミナルの発展と周辺繁華街の発達や、貨物輸送がメインだった山手線が現在の旅客輸送中心となり、東京の鉄道路線の代名詞になるまでを車両やエピソードとともに紹介します。
・本展は埼玉県教育委員会と連携し、埼玉県立新座総合技術高等学校の生徒が参画して若い力とともに作り上げた、今までにない企画展です。

駒込付近を行くホデ 6100 形
明治末期


モハ 63 形
1946(昭和 21)年頃

ウグイス色の 103 系
1964(昭和 39)年頃

205 系
1986(昭和 61)年

企画展「鉄道博物館 100 年のあゆみ 1921-2021」を開催

2021 年は当館の前身である初代・鉄道博物館が東京駅北側高架下に開館してから 100 周年にあたります。この間、名称や所在地、運営組織、収蔵資料、展示手法など、多くの面で変化を遂げました。本展では 100 年という節目の年にあわせ、これまで歩んできた道のりをふり返ります。

会期：2021 年 10 月 14 日（木）～2022 年 1 月 31 日（月）

初代･鉄道博物館の開館から交通文化博物館、交通博物館を経て、現在の鉄道博物館に至るまでの歴史を、写真や実物資料、映像、各種データなどでご紹介します。

東京駅北側高架下時代
（1921～1935 年）

万世橋時代
（1936～2006 年）

大宮時代
2007～現在）

団体名	一般財団法人東武博物館	〒　131-0032 Tel：03-3614-8811　Fax：03-3614-8814 URL：https://www.tobu.co.jp/museum/ Email：kanri@tobuhaku.jp 担当者：管理担当　伊藤　美千夫

東武博物館は、今年も新型コロナウィルスの影響で 1 か月ほど臨時休館となりましたが、それ以外の期間は、開館時間の短縮は継続しながらも感染拡大防止対策の徹底のもと営業を行っており、来館数者についても、大幅減となった昨年に比較すれば少しずつではありますが増加してきております。

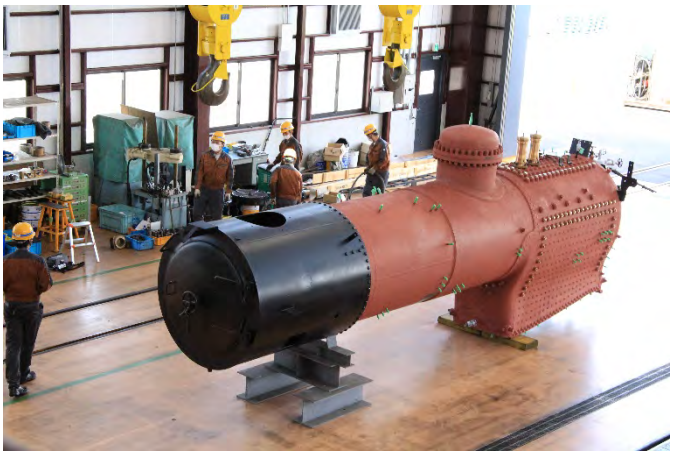
SL 復活運転につきましては、真岡鐵道から加わった C11-325 号機が活躍を始めるとともに、C11-207 号機も検査を行い、2 機体制での本格的な運行を始めております。10 月 1 日には両車の重連運転も実現し、大きな話題となりました。

一方、復活に向けて修繕が進められている C11-123 号機（旧標記 C11-1）は、ボイラーやキャブ等の大規模な修繕を行うなど、SL3 機体制に向けた準備を着々と進めているところです。

また、JR 四国様より譲受した 12 系客車 2 両については、展望車化改造・リニューアルを行い、塗色変更を行った一部の 14 系客車とともに今秋から運行を開始する予定となっております。

7 月 31 日からは毎日運転が開始されておりますが、上記を含め通年の安定運行に努力していきます。

C11-207 号機を先頭に C11-325 号機を
連結して、重連運転を行った



復元作業中の C11-123 号機ボイラー

展望客車に改造された 12 系客車
オハテ 12-1（茶色）とオハテ 12-2（青色）

団体名	**公益財団法人 日本ナショナルトラスト**	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル 4 階 TEL：03（6380）8511　FAX：03（3237）1190

2021 年「トラストトレイン」運行日ボランティアについて

4 月 10 日・6 月 5 日・7 月 3 日・8 月 21 日・9 月 25 日

＊いずれも土曜日に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020 年度同様、全日程を中止しました。

＊2019 年度は 4 月～9 月まで計 5 回の運転を行い、ボランティア参加数 92 名という結果でした。

〔区間〕　大井川鐵道　新金谷―千頭間（37.2km）

〔運賃〕　新金谷―千頭（片道 2,570 円・ SL 急行料金含む）

〔保有車両の編成〕

C12 形 164 号蒸気機関車、スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車

〔運行時間〕

新金谷駅 11:52 発→千頭駅 13:09 着

千頭駅 14:55 発→新金谷駅 16:11 着

「トラストトレイン」の活動について

運行日のボランティア活動では、車両の清掃や運行補助のほか、活動を周知するためのパンフレット配布などを行っています。

他にボランティア間でミーティングも行い、活動を充実させるためには何をすればよいか、ボランティアや協力者を増やすにはどうすればよいかなど知恵を出し合い、行動に移しています。

また、夏場の運行日は「親子ボランティア」として実施し、次世代を担う子供たちに歴史的車両を守っていく楽しさや喜びを伝えるため、歴史的車両と触れ合う機会、保存・活用に関わっているボランティアの方々や大井川鐵道の鉄道マンの方々と交流する機会を設けています。

2017 年には、トラストトレインは運行 30 周年を迎えました。市民参加により動態保存されているこの貴重なトラストトレインを末永く維持管理するために、今後も皆様の温かいご支援をお願いいたします。

C12 形 164 号蒸気機関車

毎年好評の親子ボランティア

団体名 **公益財団法人 交通協力会**

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903 号
電話 03-6269-9808　　FAX 03-6269-9809
会長兼理事長　上野　文雄

沿　革

当会の源流は、大戦中の 1943（昭和 18）年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。その頃、戦時経済のもとで紙が統制物資となり、いわゆる業界紙誌の発行が困難に陥っていました。陸運協力会は、これまで民間業者が発行していた鉄道関係の業界紙を統合して同年 4 月、日刊紙『陸輸新報』の刊行を開始し、各種雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

戦後は名称を財団法人交通協力会と改め、『陸輸新報』も『交通新聞』と改称し、『交通年鑑』と『交通技術』誌を発刊、1949（昭和 24)年の公共企業体日本国有鉄道の発足とともに『国有鉄道』・『国鉄線』の両誌を発刊しました。これらはいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄改革まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した『鉄道辞典』や、100 周年記念に国鉄が編纂した『日本国有鉄道百年史』も、同会が刊行しました。

1987（昭和 62）年の国鉄改革にあたり、新聞・雑誌の刊行や書籍出版事業は新たに発足した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011（平成 23）年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

交通関係の年次刊行物や、旧国鉄の機関誌類をデジタル版として復刻し、電子図書館に収蔵しています。既に『交通年鑑』・『日本国有鉄道監査報告書』・『国有鉄道』・『国鉄線』・『交通技術』・『鉄道辞典』を収蔵し、今後『日本国有鉄道百年史』などを収蔵する予定です。

当会ホームページ http://transport.or.jp の電子図書館にアクセスし、ID・パスワードを入手すると、無料で閲覧することができます。

『鉄道百五十年史』編纂事業

2022 年 10 月にわが国鉄道の創業 150 年を迎えます。『日本鉄道史』、『日本国有鉄道百年史』に続く正史編纂が必要ですが、鉄道省も日本国有鉄道も存在しない現在、編纂の主体や、旧国鉄時代の資料発掘など困難な課題もあります。当会は 2012 年以来、新鉄道史編纂に備えて調査・研究活動を進め、2015 年 11 月からは当会が事務局となって、国交省、鉄道・運輸機構、旧国鉄承継法人、民鉄協会などが参加する「鉄道史に関する懇話会」を発足させて審議を重ねました。その結果、総事業費 3 億余円をかけて、国鉄・JR だけでなく民営・公営鉄道を含む鉄道 150 年の総合史（全 5 巻および資料編 1 巻）を編纂し、2022 年度に刊行することが決まり、2017 年 4 月、東京大学名誉教授原朗先生を委員長とする『鉄道百五十年史』編集委員会が発足しました。当会は編集委員会の事務局を務め、完成した『鉄道百五十年史』を当会の名で出版します。3 億円をこえる事業費は、JR 各社のほか民鉄など鉄道事業者、鉄道と関係の深い諸団体や企業などからの寄付で賄い、文字通りわが国鉄道関係者の総力を結集した事業となっています。

編集委員会は 2 年間にわたる議論を経て全巻の詳細な記述内容を確定し、各巻 2 名の編集委員（経営史、技術史の専門家各1名）計 10 名のほか、約 60 名の分担執筆者が加わって、執筆を始めました。巻別の内容は、第 1 巻「創業から国有鉄道の誕生まで」、第 2 巻「帝国の鉄道の形成・発展・崩壊」、第 3 巻「復興期から高度経済成長期の鉄道」、第 4 巻「交通市場の変容と国鉄の経営危機」、第 5 巻「JR と民鉄の時代」となっており、1949 年の日本国有鉄道発足から 1987 年の国鉄改革までの約 40 年間に 2 巻を充て、この時代に特に重点を置いた構成になっています。旧国鉄・JR のほか民公営鉄道の動向にも目を配り、技術史にも多くのスペースを充てるほか、グローバルな視点から日本の鉄道の発展史をとらえることを目指しています。

原稿執筆は順調に進んでいましたが、昨年来のコロナ感染症蔓延の結果、資料調査に支障を来すなど予期せぬ困難が生じたため、やむなく刊行時期を約 1 年延期することとしています。

団体名	「横浜市電 1156 号保存会」	〒231-8445 Tel：090-9015-3707／090-8036-2383 Email：yokohamashiden1156@gmail.com 担当者：齊藤 大起（さいとう ひろき） https://yokohamashiden1156.jimdofree.com/

■団体の趣旨

横浜市港南・磯子区の久良岐（くらき）公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を修復・維持するとともに、毎月 1 回、車内を公開するイベントを開催しています。1156 号は 1952 年に製造され、横浜市電が 1972 年に全廃されるまで走り続けました。代表的な形式だった 1150 号型の最後の現存車両でもあり、貴重な存在といえます。車両を保存するだけでなく、電停や架線など周囲の情景も再現し、往時を知る人たちへの聞き取り活動も並行して続けながら、「街に市電が走っていた頃」を伝える「よすが」を目指しています。

＊新型コロナウイルス感染拡大の影響で、毎月の車内公開は当面の間、中止します。

▲輝きを取り戻した現在の 1156 号

▲照明を点灯した夕方の姿

■保存の経緯

2010 年末、神奈川新聞の記者（齊藤）が、荒廃していた 1156 号が解体されるとの情報を聞きつけ、管理当局の横浜市に修復など保存活動を申し出たことがきっかけです。当時は窓ガラスやドア、前照灯、尾灯、座席などの部品・機器類が全て失われ、とても哀れな姿になっていました。40 年近くにわたる屋外展示で風雨にさらされ劣化したことに加え、悪意ある人たちによる破壊、盗難などがその理由です。

時を同じくして、公園の近くに本社のある塗装業大手「サカクラ」が、地域貢献の一環でボランティアによる修復作業に協力してくれることになり、横浜市環境創造局、サカクラ、神奈川新聞社の 3 者で 1156 号の修復・保存を進めていくための覚書を締結しました。

修復作業は足場を組み、2 カ月を費やす大がかりなもので、失われていた窓ガラスやドアなどを極力再現。前後のライトや室内灯も点灯可能としました。座席は相模鉄道から寄贈していただきました。

さらに 2014 年には同局が車両周辺を大規模に改修し、擬宝珠のような飾り「ポールトップ」を載せた架線柱や、架線、それに電照式の電停標識も新調しました。道路から発掘された市電のレールを車両の前後に埋め込むことで、わずかながら路線の“延伸”も実現しました。

2020 年 12 月からは、横浜市電の運転・運行管理を楽しめる**ゲームアプリ「追憶の電車通り」**（App Store, Google Play からダウンロード）の広告収益を、維持費に充当する仕組みも始まっています。

■横浜市電とは

1904（明治 37）年、民営の横浜電気鉄道として横浜市内に開業した路面電車。軌間 1372 ミリ。昭和 30 年代の最盛期には総延長 52 キロの路線を運行し、年間に 1 億 2 千万人を輸送したものの、道路の渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響を受け、1966 年以降、順次廃止が進み、1972 年 3 月 31 日に全ての路線がバスに置き換えられ、営業を終えた。他事業者への譲渡車両はなく、現存するのは横浜市磯子区にある「市電保存館」の 7 両のほか、市内に 4 両が残るのみ。

◂窓ガラスやドア、ライト、部品などが全て失われ、荒れ果てていた 2011 年当時の 1156 号

団体名	公益社団法人 横浜歴史資産調査会 （ヨコハマ ヘリテイジ）	〒231-0012 横浜市中区相生町３丁目６１　泰生ビル４０５号室 Tel/Fax 045-651-1730 URL：http://www.yokohama-heritage.or.jp/ Email：yh-info@yokohama-heritage.or.jp

公益社団法人横浜歴史資産調査会（愛称・ヨコハマ　ヘリテイジ）では、横浜市内の歴史的建造物、土木遺産等の調査、保存、活用の他、内閣府認定の公益法人として生活文化の視点から鉄道や生糸文化等を大切にしている全国各地の皆さまと力を合わせて地域遺産の調査、保存、活用を行っております。

１．旧湘南電気鉄道（現・京浜急行電鉄）瀬戸変電所の調査、保存、活用

京浜急行金沢八景駅に隣接している瀬戸変電所は、１９３０年（昭和５）の湘南電気鉄道開業に合わせて、昭和４年に建造された鉄骨、鉄筋、コンクリート造の堅牢な歴史的建造物で昭和５０年末まで使用されていました。ここで生まれた電気で湘南デ１形を始め、湘南、京浜急行の５００、６００、１０００、２０００形等の名車が快走しました。

当公益社団では、この建物の現況、耐震、修理計画等の調査を約５年かけて行いました。今年度は、現代美術作家活動拠点等に向けた事業計画を作成中で、２０２３年度の改修事業を目指し、鋭意、取り組んでいます。

旧湘南電鉄瀬戸変電所は、金沢八景駅に隣接

建物内部の劣化状況を調査中

２．旧国鉄高島支線・瑞穂橋梁の調査

瑞穂橋梁は、品鶴線から分かれて横浜の港を目指す高島線から分岐し、横浜港の瑞穂埠頭に通じる線路に架かる橋梁です。当公益社団では、「港－鉄道－ヨコハマ」と港における鉄道の重要性を発信していますが、演歌ではありませんが、「港、横浜」が浸透しています。

赤レンガ倉庫や横浜港駅に通ずる旧横浜臨港線を横浜の歴史的資産と位置づけ、「汽車道」として整備したように、瑞穂橋梁を中心にプレートガーター橋や見事な石積みの築堤がつらなる鉄路の再生を仕掛けたいと思っています。

特に要となる瑞穂橋梁は１９３４年（昭和９）建造で、全長約８０m、美しいアーチを描く曲弦ワーレントラスとプレートガーターを組み合わせた美しい橋梁です。幅は、複線分ありますが、当初から東側に単線形式で線路が設けられ、現在もその様子が良く残っています。我が国初の溶接技術を用い、一部には従来のリベットも使用されていることから大変珍しい橋梁です。専門家は、国指定重要文化財級と評価しています。

瑞穂埠頭は、現在在日米軍の補給基地として利用されていますが、線路や橋梁は２０２１年３月３１日に返還されました。今後これらの保存、活用を目指していきます。　（米山淳一）

宮村会長（右から二人目）、役員らで瑞穂橋梁を視察

団体名	**新潟市新津鉄道資料館**	〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町２－５－６ TEL 0250（24）5700　　FAX 0250（25）7808 E-mail：railwaymuseum@city.niigata.lg.jp URL：http://www.ncnrm.com/ 担当者：加藤　裕之

◆新津鉄道資料館概要

昭和５８年、旧新津市が新津市鉄道資料館を開設しました。平成１０年４月、旧国鉄の鉄道職員研修所「新潟鉄道学園」を買い取って改修し、２代目新津鉄道資料館として現位置に移転しました。平成１７年に新潟市との広域合併により「新潟市新津鉄道資料館」となり、平成２６年７月にリニューアルオープンしました。

２００系新幹線、Ｃ５７形１９号機蒸気機関車、４８５系特急形電車、ＤＤ１４形液体式ディーゼル機関車、Ｅ４系新幹線、１１５系近郊形電車、新幹線確認車ＧＡ－１００を静態保存しています。新潟・新津地域の鉄道を地元と共に最大限活用する施設として、鉄道産業を「鉄道文化」として発信していきます。

定期運行終了で注目を浴びたＥ4 系新幹線と 115 系電車

◆施設概要

１．位置　　新潟市秋葉区新津東町２－５－６
２．交通　　信越本線新津駅下車バスで５分。磐越自動車道新津ＩＣから車で２分
３．建物　　鉄筋２階建、延べ１、７６４㎡（屋外展示場除く）
４．展示品　新潟・新津ゆかりの鉄道資料約８００点
５．特色　　実物車両7両展示、電車運転シミュレータ、ミニSL（D51形の縮尺1／5）など

◆令和３年度事業

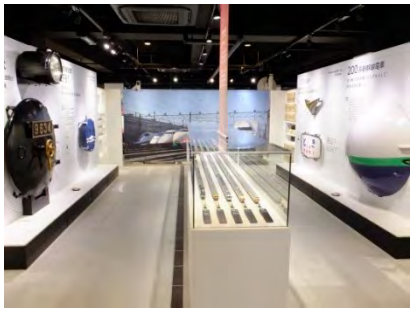
①９月１７日～１１月８日　特別展「瀬古龍雄鉄道写真展 II ―新津・新潟のＳＬ―」
新潟県における鉄道文化の記録保存や鉄道史研究に大きな功績を残した瀬古氏が撮った膨大な写真の中から、県内の蒸気機関車にテーマを絞って紹介します。
②４月～１０月　土日・祝日を中心にミニＳＬを運行
③まちなか鉄道資料館
新津商店街に新津鉄道資料館所蔵大型資料を設置・展示（SL 動輪・踏切警報機等）
④鉄道模型走行会　　新潟市内の鉄道模型愛好団体の協力を得て開催
⑤その他　鉄道七夕、鉄道書初め、鉄道友の会新潟支部展示、実物車両車内公開　他
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、９月３日～１６日に臨時休館。また、サンクスフェアや特別記念講演会などを今年度も開催中止としています。

◆実物車両展示

200 系新幹線・SL C57 形 19 号機

新幹線確認車 GA-100

DD14 形機関車と 485 系電車



鉄道の仕組みコーナー

ミニSL「にいつきてきち号」はお子さんに人気

団体名	長野県　上松町 **赤沢森林鉄道**	〒399-5601 Tel：0264-52-4804　Fax：0264-52-1038 URL：http://www.town.agematsu.nagano.jp Email：syoukan@town.agematsu.nagano.jp 担当部署：産業観光課商工観光係

赤沢森林鉄道は、1987 年の復活から 34 年となりました。しかし新型コロナウィルスの世界的な蔓延で、運行状況はかつてない窮地を迎えています。

それまで、毎年コンスタントに 4～6 万人が乗車されていましたが、コロナ禍により旅行産業が一気に沈下。来訪者は例年の 20～30%に留まっています。特に貸切バスを利用する団体ツアーは、感染を敬遠するため来訪者全体の 1%を切りました。これまで 30 年以上の運行でも、初めて経験する最悪の状態です。
このコロナ禍がいつまで続くのか危惧しながら、一日も早い収束を願うばかりです。

利用者の減員に伴って、赤沢森林鉄道も運行形態を変更しました。
これまでは平日・祝祭日でダイヤを分けていましたが、これを繁忙期・閑散期に分け、土日でも来訪者が少ない際には運行時間に間隔を設けています。また閑散期の平日は、通常 5 両の客車を 3 両に減らし、人員と消耗品の圧縮に努めています。

2020 年秋には、消毒や感染対策を万全にし、ツアー会社とのタイアップで赤沢森林鉄道撮影会を開催しました。
2 日間にわたり、のべ 40 名の鉄道ファンが愛用のカメラに車両の姿を納めていました。
撮影には専門のスタッフも同行し、普段は静態保存されている蒸気機関車にスモークの演出で現役当時の様子を再現。夜にはライトアップして印象的な趣を整えていただきました。

本年秋にも、このイベントが開催される予定です。既にご予約はいっぱいで、秋の紅葉シーズン、天気と色付きに恵まれることを期待しています。

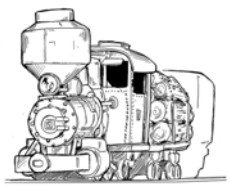
2010 年に導入された機関車 AFT-02 が 12 年目を迎えました。製造当時は国内で多くの部品が入手できましたが、製造拠点の海外進出や統廃合により、損耗部品の欠品が見られるようになってきました。
幸いにして AFT-01 との共通部品が多いため、パーツをやりくりしながら延命することになりそうですが、これからの営業には十分に応えられないかも、という不安がよぎります。

現在の森林鉄道の運行ノウハウは、先輩たちから引き継いだ貴重な技術と文化です。一度でも途切れると再開は極めて困難なため、コロナ禍と施設の老朽化に負けないよう立ち向かってゆかねばなりません。
赤沢森林鉄道保存の奮闘は、まだまだ続きます。

【赤沢森林鉄道　運行情報】

運行期間：　2021 年 4 月 28 日～11 月 7 日　11 月 8 日以降は冬期運休
運行時間：　閑散期＝10:00～15：00 まで 1 時間毎、　繁忙期＝9：30～15：30 まで 30 分毎
料　　金：　中学生以上 900 円、　4 歳～小学生 600 円　　夏休みイベント期間は＋200 円
団体 15 名以上 100 円引き、　障がい者ご本人半額・介添え者団体料金

運行情報：　上松町観光協会　https://kiso-hinoki.jp/



団体名	信濃追分駅舎・可惜（あたら会）	〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町大字追分1092 Email：mm4007jp@yahoo.co.jp（河合）

２０１２年（令和３年）９月４日　第２号　信濃追分駅舎・あたら会発行

shinano-oiwake stationhouse news

信濃追分駅舎新聞

「高原の駅で逢いましょう・2021」を開催

8月28日、29日の二日間、信濃追分駅で駅舎保存を目指すイベントを開催。晴天に恵まれ、無人駅がいっときの賑わいを見せました。

2日間のイベントに約300人の来訪者がありました。

午前十時、信濃追分駅を管轄する守屋軽井沢駅長による記念入場券発売から始まったイベント。今回はコロナ禍を考慮して、当初予定していたライブやマルシェなどを延期して展示のみの開催となりました。初めての試みとして国鉄時代の駅スタンプを復刻、現存するスタンプ台も修復しました。しなの鉄道も「信濃追分駅発行」の硬券入場券を窓口で販売するなど、1997年（平成九年）のしなの鉄道発足時に無人化されてから、ひさしぶりに「有人駅」となりました。駅舎事務室では鉄道写真家、真島秀満とその弟子たちによる写真展や鉄道模型の運転も行われました。

復刻された駅スタンプ。

しなの鉄道としては初の信濃追分駅硬券入場券、人気を呼んで２日間で完売した。

駅舎に隣接する955ステーションでは全国に残る「100年駅舎」杉崎行恭写真展も開催、あわせて今年の郵政150年を記念して「追分郵便局の歴史展」も開かれました。信濃追分駅と共に地元を支えてきた追分郵便局は今年開局149年目で、1909年（明治四十二年）の信濃追分駅仮開業よりも長い歴史を持っています。

鉄道部品販売会も

イベント二日目の29日には解体した電車の部品販売会があり、国鉄マーク入りの扇風機や車掌室のドアといった大物も出品され、人気の集まった部品はくじ引きで鉄道ファンに引き取られていきました。そしてイベントの最後は依田追分郵便局長による「追分節」が唄われました。9月から駅舎は町営駐車場拡張工事の事務所となるため、次回のイベントは来年となります。そして2023年はいよいよ信濃追分駅舎百年、皆で駅舎の可能性を探っていきたいと思います。

軽井沢町内５カ所の郵便局長も集合。

出札口が開く、記念入場券を販売。

団体名	足久保鐵道株式会社	〒　420-0905 Tel：054-207-7444　Fax： URL　　： https://www.facebook.com/ashikubotetsudo/notifications Email：tamai-h@tokai.or.jp 担当者：玉井宏政

昨年から引き続いているトラ１６の再塗装を行いました。下回りは見えるところのみを仕上げており、来年も引き続き作業を継続していきます。

他にも愛知県北設楽郡設楽町の「道の駅したら」へ移設されたモ１４の傾斜修正、道の駅開駅セレモ二―に合わせてタイフォン吹鳴、パンタグラフ修繕を行いました。

１１２号蒸気機関車も可動部分を増やしています。詳細な活動報告は足久保鐵道公式フェイスブックで公開しております。

団体名	大井川鐵道株式会社	〒428-8503 Tel：0547-45-4113　Fax：0547-45-4115 URL：oigawa-railway.co.jp Email：koji.sakamoto@daitetsu.jp 担当者：坂本光司

本年度も「きかんしゃトーマス号」2021 年 6 月 12 日～9 月 27 日までの 65 日間運転を実施。6 月中は緑のトーマス（はじめて物語仕様）にて運転、7 月からは通常の青色にて運転しました。
2021 年 12 月 24 日～2022 年 1 月 10 日までの 15 日間は冬のトーマスとして運転いたします。

昨年の 10 月 2 日井川線アプト区間開業 30 周年を迎え、本年 1 年延期となりました記念式典を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、残念ながら中止となりました。
奥大井湖上駅で星空観賞お楽しみいただく、星空列車を 2021 年 11 月～2022 年 2 月までの（1 月 1 日～2 日を除く）土・日曜日を運転いたします。

団体名	東海旅客鉄道株式会社 リニア・鉄道館	〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭 3 丁目 2-2 TEL　052(389)6100 https://museum.jr-central.co.jp/

○入館料

大人	1,000 円	（団体 800 円）
小中高生	500 円	（団体 400 円）
幼児(3 歳以上)	200 円	（団体 100 円）

※障がい者手帳をお持ちのお客様と付添の方
大人 500 円、高校生以下 200 円

○休館日
毎週火曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始／12 月 28 日～1 月 1 日

○展示
鉄道車両 39 両＋バス 1 台、鉄道のしくみコーナー、超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ、シミュレータ、シアターなど

【高速鉄道技術の進化が一望できる車両展示エリア】

【2020～2021 年の記事】

☆国鉄バス第１号車に対する文化審議会答申（2021/10/15）
　当該車両は今回の答申により鉄道省営乗合自動車として指定されることとなった。

国鉄バス第１号車

○開館 10 周年記念イベントの実施（2021/3/14～）
・C62 形式蒸気機関車に「10 周年ヘッドマーク」で特別装飾
・名古屋臨海高速鉄道あおなみ線に記念装飾車両（１編成）
・特別講演会 須田　寛　ＪＲ東海相談役（現顧問）
　「オープン 10 周年を迎えて、今、想うこと」(2021/3/14)
・特別展　リニア・鉄道館 10 年のあゆみ

○第 10 回企画展（2021/3/10～2022/1/31）
『重要文化財　ホジ６０１４号蒸気動車のすべて
　～誕生からこれまでの歩み～』

C62 10 周年ヘッドマーク

蒸気機関車給水柱

○新たな常設展示の設置
・N700S 新幹線電車プロジェクションマッピング
・蒸気機関車給水柱（C57 型式蒸気機関車付近）
・機関車番号板

○館内ガイドツアー
「館内みどころガイド」「鉄道ジオラマへの想い」
「ホジ６０１４号蒸気動車」「ありがとう７００系」
「クイズ！鉄道探検隊！～車内編～」「鉄道の標記のひみつ」
「鉄道の信号のひみつ」「超電導リニアの走る・浮くしくみ」

ミニジオラマをつくろう！

○ワークショップ
「親子でオリジナル駅名グッズを作ろう！」
「オリジナルバッジをつくろう！」「ミニジオラマをつくろう！」
「超電導リニアの模型をつくって、うかせよう！」

○その他
　新幹線車両のアルミリサイクル展示（2021/6/30～）
　鉄道の標記文字のひみつ特別展
　鉄道友の会写真展　など

新幹線車両のアルミリサイクル展示

団体名	公益財団法人 **博物館　明治村**	〒484-0000　愛知県犬山市内山 1 番地 Tel：0568-67-0314　　Fax：0568-67-0358 URL：http://www.meijimura.com/ Email：masataka.kondou@nrr.meitetsu.co.jp 担当者：近藤 雅隆

＜蒸気機関車＞

〇㈱ジェイアール西日本テクノスによる動態展示物の車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。

〇2020 年 9 月に SL12 号オーバーホールを終了。その後、試運転を繰り返し実施して運行再開を目指していたが、不具合が生じたため現在修理中。

〇SL9 号で動態展示を実施。※メンテナンスのため運休日あり。

〇2022 年に SL9 号オーバーホールを㈱東海汽缶で実施予定。

〇ボイラー検査を SL12 号 8 月 26 日（木）、SL9 号 9 月 9 日（木）に実施。

＜ハフ 11・13・14＞

〇㈱ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。

＜京都市電＞

〇㈱ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。

＜設備工事・点検＞

〇名鉄ＥＩエンジニア株式会社による電路・電気設備点検を半年に 1 回実施。

〇矢作建設（株）による軌道点検整備を半年に 1 回実施。

＜蒸気機関車及び京都市電の動態展示＞

蒸気機関車※SL9 号と SL12 号のどちらかが 3 両の客車を牽引します。

片道　大人 500 円　小学生 300 円

京都市電※1 号車と 2 号車のどちらか 1 両が運行します。

1 乗車　大人 500 円　小学生 300 円

ＳＬ市電一日券

乗り降り自由　大人 800 円　小学生 500 円

SL9 号・SL12 号

京都市電

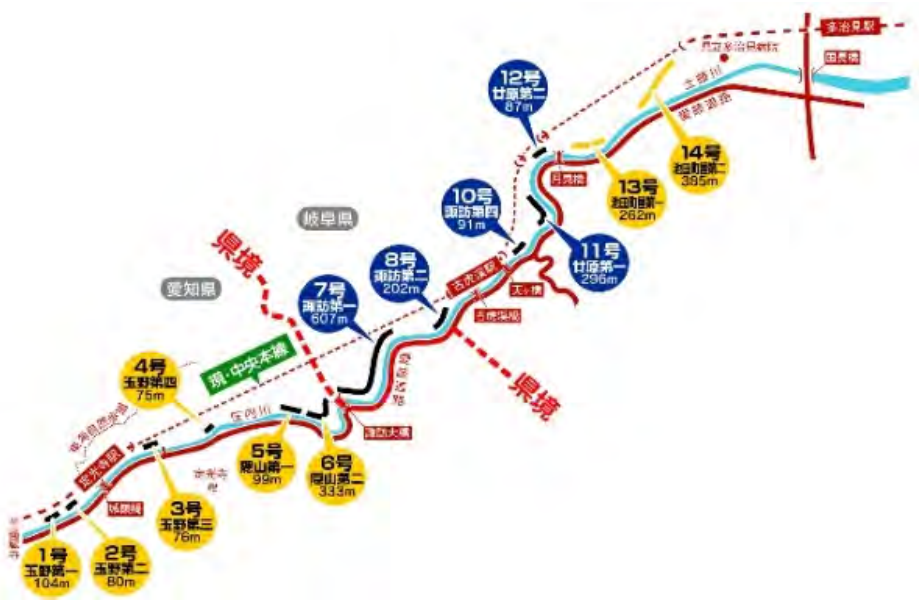
団体名　NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会

〒463-0032　愛知県名古屋市守山区白山 1-708　担当者　理事長　村上真善
Phone 090-4860-4664　URL http://aigi-tunnel.org/　e-mail muramasa@mc.ccnw.ne.jp

～～～遅ればせながら　自己紹介します～～～

鉄路の証はトンネルとバラストだけ！
大都市・名古屋の直近にある 8 キロの廃線と 13 基のトンネル群

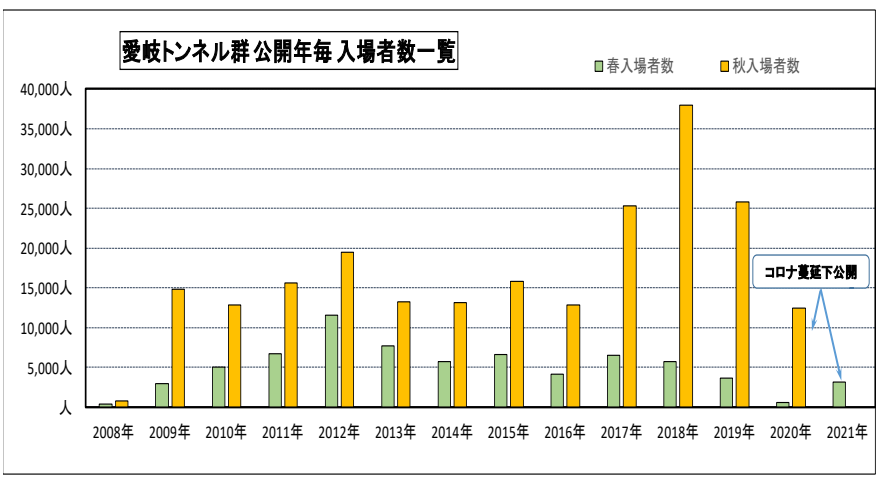
概要　名古屋市から長野県塩尻市へつながる国鉄中央(西)線は、明治 33 年（1900 年）まず名古屋から岐阜県多治見市まで開通した。この時、愛知県と岐阜県の県境をまたぎ 14 基（9 号はその後撤去）ものトンネル群が造られ 1961 年まで使われた後、長大トンネルの新線が建設に伴い約 8 ㌔のこの区間が廃線となった。その後、2006 年に市民により発見されるまで廃線とトンネル群は人を寄せつけない急峻な崖の中腹のヤブに潜み、半世紀近く人々の記憶から消え去っていた。



トンネル配置地図

現状　活動状況　発見以来、市民による手弁当の活動は、発掘・保存・再生へと活動を拡げ、毎週 2～3 回草刈りや施設補修の他、知恵と工夫を凝らした行事を随時開催するなど活発化してきた。と同時に発見以来、毎年春・秋の年 2 回市民に向けた「特別公開」を開催している。これらの目的は多くの国民へ埋もれていた資産の意義の周知と保存活用の必要性を訴え続けることであった。おかげで 2016 年には念願の鉄道トンネルとしては東海地方初！国登録有形文化財の認定を得るに至った。

また嬉しいことに、廃線時にレール・枕木などが撤去され鉄路は半世紀にわたり人の侵入がなかったことが幸いし直径 30 ㎝を越える樹木や草花が復活し、まるでネイチャーロードの様相を呈している。特に活動地の愛知県側の 1.8km の区間には 300 本を超えるモミジが自生し、これを主役にして売り出し、今では「隠れたモミジの名所」として人気を博している。



ところで活動区間の愛知側の 13ha の軌道敷を保存しようと、全国でも珍しい歴史遺産敷地を買取るナショナルトラスト運動を実施し、実に 5 年の歳月をかけ 12,000 人からの寄付浄財を基に 2014 年取得したことは特筆すべきことだ。さらに廃線周辺地を寄贈したいとの依頼が舞い込むなど地域の鉄道遺産保護への機運が盛り上がっているように感じている。

団体名	NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク	〒506-1147　岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2 Tel：090-7020-5852　Fax：0578-82-6677 URL：　https://rail-mtb.com/ Email：　info@rail-mtb.com 担当者：　田口　由加子

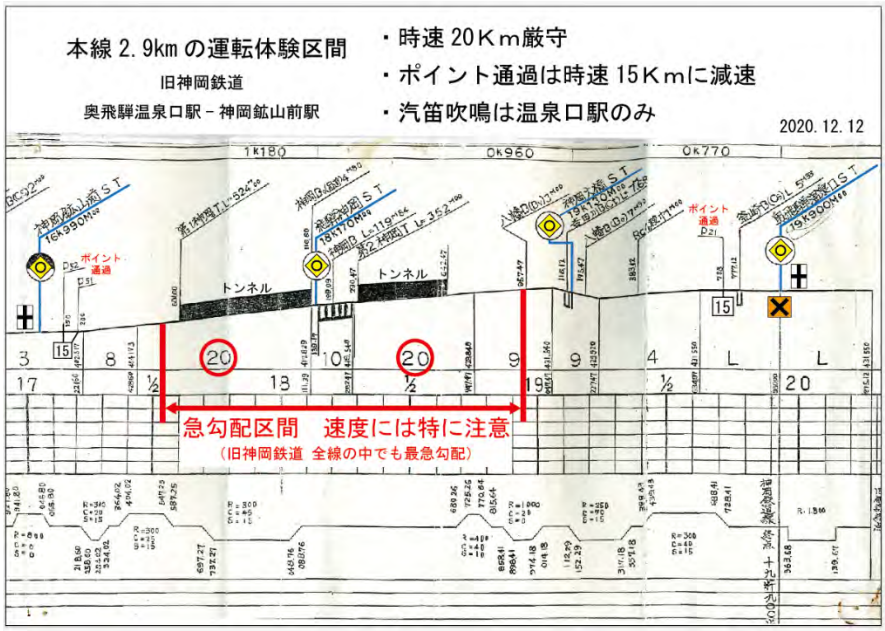
おくひだ号（KM-101・KM-151）　運転体験

【念願のロングランを開催しました】

昨年の冬に、現在の旧神岡鉄道軌道の走行可能区間を最大限に利用した片道 2.9ｋｍ（旧奥飛騨温泉口駅～神岡鉱山前駅　間）の運転体験を行いました。

沿線にはトンネル２つ・高架橋１つ・ホーム４つがあり、神岡の町並みの中に溶け込む神岡鉄道ならではの展望を楽しみながら、ハンドルを握っていただきました。ただし、急勾配の中をホームで停止、速度の感覚がつかみにくいトンネル内、速度制限＋小雨＝登り勾配で車輪が空転…という、かなりトリッキーな上級者向けの体験メニューです。

2021 年度も 11 月末から 12 月初めにかけての運行を予定しております。



【2 両つなげて総括運転体験を開催しました】

「人も車も動くうちに…」をモットーに、現在のおくひだ号が **２ 車両とも**、安定して動く状態でしかできない、総括制御の運転体験を行いました。（旧神岡鉱山前駅～飛騨神岡駅　間・片道 1.2ｋｍ）

通常の体験では単機の走行でしたが、重連の往復運転では 1 号・2 号を交互に運転することになるため、それぞれの車両のブレーキのかかり具合の違いやノッチ感覚の違いを楽しんでいただける、こちらも上級者向けメニューです。ゆくゆくは総括制御の長距離が実現できますよう、車両のメンテナンスを予定しております。

【来年も運転体験を計画中です】

コロナ禍にありましたが、たくさんのお客様にハンドルを握っていただけた運転体験。来年も安全に運行ができますよう、現区間の枕木交換や飛騨市のご協力をいただいて「ふるさと納税」を活用した新規区間の補修工事を行っております。

（コロナ前は、おくひだ 1 号を奥飛騨温泉口駅に展示・開放しておりましたが、コロナ禍では密になることと車両の劣化が進んだため、現在では車庫の中で保存しております）

【レールマウンテンバイクも営業しています！】

今年度は休業要請もなく、予定通り開催しました。

旧長浜駅舎・長浜鉄道文化館・北陸線電化記念館の総称

長浜鉄道スクエア
Nagahama Railway Museum

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町1番41号(JR長浜駅から徒歩3分)
TEL.0749-63-4091 FAX.0749-64-0396
http://kitabiwako.jp/tetsudou/

名誉館長　米山 淳一(日本鉄道保存協会 事務局長)
館　　長　今井 克美(公益社団法人長浜観光協会 専務理事)
担 当 者　梅園 いつ子(公益社団法人長浜観光協会)

●旧長浜駅舎　明治１５年３月１０日、長浜～敦賀の北陸線始発駅として開業。昭和５８年に鉄道資料館として開館。現存する日本最古の駅舎です。令和２年６月１９日、旧長浜駅舎を含む鉄道遺産「海を越えた鉄道 ～世界へつながる 鉄路のキセキ～」が認定されました。

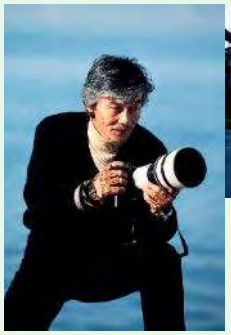
●長浜鉄道文化館　公益財団法人ナショナルトラストが、まちづくり事業の活動支援の拠点「ヘリテイジセンター」として２０００年１０月に設置・開館しました。長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館として常設展示の他、企画展示も行っています。建築家・吉田桂二氏設計で天井はヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくりです。

●北陸線電化記念館　鉄道文化館と同様の趣旨で２００３年７月に開館しました。機関車庫をイメージした建物で吉田桂二氏設計によるものです。Ｄ５１形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のＥＤ７０の１号機を展示しています。

令和２年度 開催企画展・イベント

【企画展】

- 鉄道写真家 真島満秀の世界展【2020/1/10～6/30】※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 4 月 14 日～5 月 12 日は休館
- 鉄道写真家「清水薫」追悼写真展【2020/7/11～12/28】
- 日本遺産認定記念展【2020/9/5～開催中】
- 関田克孝コレクション「子供たちの見た東海道線の旅～絵本、図鑑でたどる 100 年～」【2021/2/27～4/25】



【企画など】

- 海を越えた鉄道～世界へつながる 鉄路のキセキ～」日本遺産認定入館料半額キャンペーン【2020/7 月～11 月】
- 種村直樹氏（元毎日新聞記者・レイルウェイ・ライター）のスクラップブックをご寄贈いただきました。

現在開催中の企画

- 第 1 回長浜鉄道スクエア 鉄道写真コンテスト【2021/10/1～11/30 募集中】
  テーマ「ふるさとの駅と鉄道」
  審査委員：猪井貴志氏（委員長）、山﨑友也氏、米山淳一氏
  最優秀賞：1 点（賞金 5 万円）
  入選作品は、2022 年 1 月から、長浜鉄道スクエアにて展示

「肥薩線 矢岳駅」photo by Takashi Inoi

公益社団法人長浜観光協会
〒526-0057 滋賀県長浜市北船町 3-24　えきまちテラス長浜
TEL.0749-53-2650　FAX.0749-53-3161
E-mail. kankou@kitabiwako.jp　https://kitabiwako.jp/tetsudou

日本遺産 JAPAN HERITAGE

団体名	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会 （事務局：長浜市観光振興課）	〒526-8501 Tel：0749-65-6521　　Fax：0749-64-0396 Email：kankouka@city.nagahama.lg.jp 担当者：川瀬　雄太

〇協議会概要

長浜市・敦賀市・南越前町に現存する明治時代の鉄道遺産など、近代化遺産を活用した広域的な観光連携を推進するため、平成２９年１０月１９日に、長浜市・敦賀市・南越前町の３市町において連携協定を結び、協議会を設立しました。

当協議会では、明治１５年に日本海側で最初に開業した長浜ー金ヶ崎（敦賀）間の鉄道の歴史や、敦賀ー今庄間の急勾配の峠越えなどを含むストーリーを活かし、県境をまたいだ広域観光を推進していきます。

〇令和２年度事業実績

①６月１２日
・長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会総会（書面）

②４月～３月
・トンネルカード配布・増刷

③６月１９日
・日本遺産認定発表及び認定記念セレモニー
「海を越えた鉄道
～世界へつながる鉄路のキセキ～」

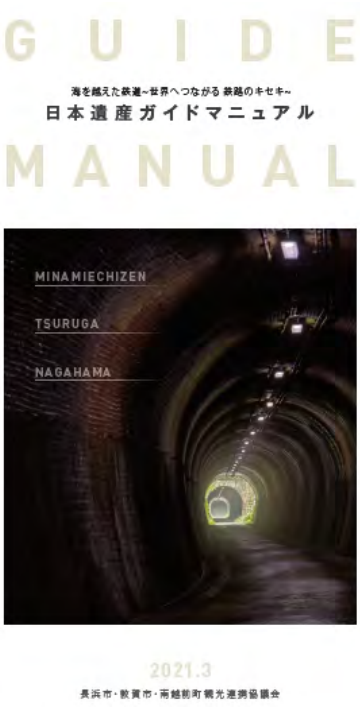
④１０月２日
・長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会臨時総会（書面）

⑤１０月９日
・日本鉄道保存協会総会への参加（リモート）

⑥ 鉄道遺産を巡るバスツアーの催行
・11/7　トンネル研究家と巡る
・11/22 鉄道写真家と巡る
・12/6　旅ライターと巡る

⑦ 鉄道遺産ガイド育成及びガイドマニュアル作成

⑧ 旅行商品造成に向けた調査分析事業
・1/18　ファムトリップ（観光事業者向け）
・2/28　モニターツアー（インバウンド向け）



団体名　特定非営利活動法人
貨物鉄道博物館

事務局（三岐鉄道株式会社内）
〒510-8014 三重県四日市市富田3丁目22-83
TEL:059-364-2141　E-mail:frm_office@sangirail.co.jp
URL:http://frm.kans.jp/

■2020年度の活動経過

2020年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策措置による休館が多く、開館の出来た場合も館内展示・屋外展示車輌車内の公開中止など感染防止対策をとった縮小開館となった。

新型コロナウイルスの感染防止対策を行っての開館
2021年1月10日

■2021年度の活動計画

2021年度も、引き続き大物車シキ160形160、木製有蓋車ワ1形5490・ワ11形11の修繕作業などを行う。

シキ160 下地サビ止め塗装中
2021年1月10日

◆2021年度定期開館日

2021年4月4日（日）、5月2日（日）、6月6日（日）、7月4日（日）、8月1日（日）、9月5日（日）、10月3（日）、11月7日（日）、12月5日（日）、2022年1月9日（日）、2月6日（日）、3月6日（日）
（2021年5月・6月・9月開館日は、新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため休館）

団体名	西日本旅客鉄道株式会社	〒　530-8341 Tel：06-6375-2176 URL：https://www.westjr.co.jp/（JR 西日本） http://www.kyotorailwaymuseum.jp/（京都鉄道博物館） Email：yuuki-tada@westjr.co.jp 担当者：多田　祐貴

１．京都鉄道博物館

西日本旅客鉄道株式会社（ＪＲ西日本）が所管する
京都鉄道博物館は、2021 年 4 月に開業５周年を迎えました。

京都鉄道博物館では、本物の蒸気機関車が牽引する「ＳＬスチーム号」や「引込線車両展示」、現役のＪＲ社員が子供達に鉄道のお仕事を解説する「鉄道おしごと体験」など、楽しく学べる企画がいっぱいです。加えて「運転シミュレータ」や「鉄道ジオラマ」も大人気！

ＳＬスチーム号

運転シミュレータ

鉄道ジオラマ

引込線車両展示

鉄道おしごと体験

事業用車両
クル 144・クモル 145

WILLER TRAINS「丹後くろまつ」
キハ 47 形「〇〇のはなし」

※緊急事態宣言に伴う休業要請に基づき、2021 年 4 月 25 日から 5 月 11 日まで臨時休館しました。
※新型コロナウイルス感染症対策のため、展示・体験の一部中止や利用制限を実施しています。

２．鉄道文化活動

ＪＲ西日本では、京都鉄道博物館を中心に、当社エリア内の鉄道文化財を保存・管理し、これらを活用する鉄道文化活動を推進しています。

当社エリア内の鉄道文化財(例)

マイテ 49 形 1 号車

和田岬線旋回橋

団体名	公益財団法人 交通文化振興財団	〒532-0011　大阪市淀川区西中島 4 丁目 2-26 天神第一ビル 1004 号室 Tel：06-6309-5113　　Fax：06-6309-5114 URL：http://kouhaku.or.jp/ 担当者：　事務局交通資料調査センター

○交通資料調査センターの活動

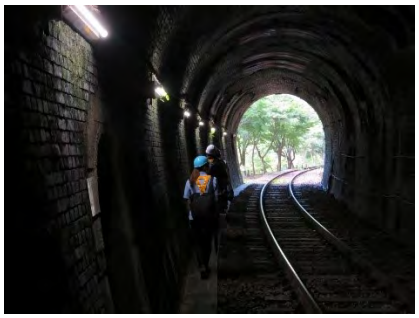
当財団の交通資料調査センターでは、交通の歴史と文化を未来へ継承するために、交通に関わる歴史資料の収集・保存や各地に残されている歴史遺産の調査活動を実施しています。

歴史資料の収集・保存

交通の歴史や文化に関わる文書類、写真、記念品、記録、文献等の資料類の散逸を防ぐため、それら資料の収集・保存を実施しています。収集方法は主に皆様からの寄贈で、昨年度は 1 万点を超える資料を寄贈いただきました。また、所蔵資料の一部は、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」で公開しています。

歴史遺産調査

交通に関わる歴史的・文化的事物の現地調査等を実施し、現状を写真や記録にして後世に伝える活動を進めています。他団体様からの依頼による調査や共同での調査にも対応しておりますので、お気軽にご相談ください。



～皆様からのご寄附が、交通の歴史と文化を未来に伝える大きな力となります～

交通資料調査センターの活動は皆様からのご寄附により支えられています。交通の歴史・文化を着実に未来に継承していくため、皆様からのご支援をお願い申し上げます。

交通文化振興財団

団体名

加悦ＳＬ広場

宮　津　海　陸　運　輸　㈱

〒629-2422　京都府与謝郡与謝野町字滝941-2

TEL 0772-46-1155　FAX 0772-46-1166

〒629-2251　京都府宮津市字須津413

近　況

■ 車両譲渡状況

加悦鉄道車両群を１両でも多く残すべく、ＮＰＯ加悦鉄道保存会様や各方面の皆様のお力添えを頂きながら協議を進めております。

■　加悦ＳＬ広場〔２７両〕の車両の譲渡状況についてご報告。
先般　2021年9月26日に最初の譲渡となる103号蒸気機関車を山口県「長門ポッポを守る会」様へ譲渡。
その他の車両　10月25日時点で２６両中の内、ＮＰＯ加悦鐵道保存会様の保存希望車両を除くと
１９両が引受の内諾・承諾いただいている状況です。
来春に与謝野町へ123号蒸気機関車、ハ4995木造客車、ハブ3木造客車の３両の譲渡を予定しております。

2021年10月25日時点　引受先が決定していない車両4両のうちの3両　（１両　４ＳＬは協議中）

Ｃ58390蒸気機関車

キハユニ51ディーゼルカー

ハ10木造客車

車両無償譲渡（ＳＬ広場　現状有姿渡し）
運搬・搬出等にかかる費用は引受者様負担にて
車両の保存先を募っております。

何卒宜しくお願い申し上げます。

団体名	特定非営利活動法人 **加悦鐵道保存会**	〒629－2403 京都府与謝野町加悦433番地 旧加悦鉄道加悦駅舎 TEL/FAX 0772(43)0232 HP http://kayatetsu.web.fc2.com/

■２０２０年９月～２０２１年８月までの主な活動

車両へのシートかけ

京都府立京都学・歴彩館にて開催された
「大正の京都」展への出展

古典車輌３両を迎えるため、加悦鉄道資料館のＣ１６０とコンテナを移動
Ｃ１６０蒸気機関車については引き続き整備を行っています

昭和 25 年製造の軌道自転車整備

○ 加悦SL広場閉園後は、指定管理を受託している加悦鉄道資料館の運営を行いながら、残された車両の整備をしつつ加悦鉄道の歴史を後世に伝えるべく活動をすすめています。

○ ホームページのご案内
その他活動等につきましてはホームページに掲載しておりますので、こちらをご覧ください。
http://kayatetsu.web.fc2.com/

令和2年度　片上鉄道保存会　活動報告書

〒708-0001　岡山県津山市小原149-5
URL: http://katatetsu.travel.coocan.jp
Email:hozonkai@katatetsu.travel.coocan.jp
担当者:　代表　甲本　康則

片上鉄道保存会は、岡山県久米郡美咲町吉ケ原にあります「柵原ふれあい鉱山公園」で、旧片上鉄道の車両や施設などの保存・維持活動を行っています。

展示運転概況

2020年度の展示運転はコロナの影響で自粛しており行っておりません。

車両

展示運転に使用できる車両は、動力車4両
(機関車1,気動車3),客車3両,貨車3両です。
展示運転が不可能な為、車輌の整備を重点的に行い
調子の悪かったDD13-551のエンジンの整備を行い
両エンド共良好な回転を得ることが出来るようになりました。
また映画の撮影の為、国鉄のDD13初期型塗装をイメージした
茶色塗装で一年展示し、現在は赤に戻っております。
また気動車303の全塗装を施しました。
現代の鉄道車両に準じたウレタン吹付け塗装になりました。

映画撮影時の晴れ姿

元キハ41000の303もピカピカ

現在は標準塗装に戻しております

施設

施設線路などこれまで出来ていなかった片付けなどが進んでいます。

花見踏切仕上げ

駅舎内の片付け整備など

管理体制見直し

令和3年4月1日より、柵原ふれあい鉱山公園の指定管理が株式会社片上鉄道から株式会社美咲物産に変更いたしました。

若桜駅を元気にする会

〒680-0701
鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5
若桜町役場 ふるさと創生課内
TEL:0858-82-2231
FAX:0858-82-0134
E-mail:furusato@town.wakasa.tottori.jp

若桜駅・駅周辺の近況

昨年に引き続き、若桜駅構内の蒸気機関車（C12 167）やディーゼル機関車（DD16 7）の運転体験、トロッコ列車（元長野電鉄無蓋車ト6）の乗車体験などの各種イベントは、新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催が中止されています。（昨年は若桜線開業90周年記念として1日のみトロッコ列車を実施。今年も鉄道の日イベントにおいて1日のみ実施予定です。）

一昨年まで4月～11月にはSLトロッコ列車が月2回若桜駅構内で運転され、観光客で賑わいました。

2020年8月以降の取り組み

若桜駅を元気にする会では若桜町上高野地内の線路際に花の植栽活動を行っており、早春には昨年秋に植えたスイセンの列が線路際を飾りました。

今年度も沿線約100メートルにわたって菜の花の播種作業を行いました。9月22日と10月6日の二日間行われ、一日目は草刈りと土壌づくり作業、二日目は種まきと腐葉土による覆土作業を行いました。

緊急事態宣言の解除を踏まえ、状況を見ながら後半期の事業として、近県の観光列車視察研修を行う予定です。

団体名	山口線ＳＬ運行対策協議会	〒753-8501　山口県山口市滝町１番１号 山口県観光プロモーション推進室内 Tel：083-933-3204　Fax：083-933-3179 URL：http://www.c571.jp/ E-mail：c571@c571.jp 担当者：中上　秀太

ＳＬやまぐち号の概要

［運転区間］
新山口駅（山口県山口市）　⇔　津和野駅（島根県津和野町）
※１日１往復
［運転時刻］
新山口駅　１０：５０発　⇒　津和野駅　１２：５９着
津和野駅　１５：４５発　⇒　新山口駅　１７：３０着
［２０２１年運転日］
１０月２３日～１２月１９日の土日運行
（１８日間）

ＤＬやまぐち号として運転しました！

○２０２１年度は２機のＳＬ（Ｃ５７とＤ５１）が検査・修繕を実施していたため、３月～９月までＤＤ５１が客車を牽引するＤＬやまぐち号として運行を行いました。その力強く豪快な走りで、山口線を大いに盛り上げました。
○更に、８月にはＤＥ１０による重連運転も実施され、その貴重な走りを一目写真に収めようと、多くの鉄道ファンが沿線に集まりました。

新型コロナウイルス感染症対策

○客車は５両の車内全てに抗菌加工が施されています。
また、ボックス席にはパーテーションを設置しており、安心してご旅行を楽しんでいただけるように対策を取っています。
○ご乗車の際または撮影や見学でお越しの際は、周囲の方と距離を保ち、マスクの着用、大声での会話を控えるなど、新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします。

△抗菌加工の様子

最新の情報は、公式ＨＰからご確認ください！　ＳＬやまぐち　検索

団体名	愛媛県西条市 鉄道歴史パーク　in　SAIJO	〒793-0030 Tel：0897-47-3855　　Fax：0897-53-6200 URL：https://s-trp.jp/ Email：tetsudobunka@saijo-city.jp 担当者：西条市観光振興課　寺田　達

四国鉄道文化館は、ＪＲ予讃線・伊予西条駅に隣接する『鉄道歴史パーク in 西条』の施設として、2007 年 11 月にオープンしました。新幹線の父を顕彰する『十河信二記念館』や実物車両を展示する『北館』・『南館』、観光案内所を兼ねる『観光交流センター』の４館からなり、四国唯一の本格的な鉄道博物館として、たくさんの鉄道ファンや子供たちが訪れています。

１　十河信二記念館

愛媛県・新居浜市に生まれ、旧制西条中学を卒業、西条市長も務めた、第４代国鉄総裁・十河信二を顕彰する施設です。遺品の展示をはじめ、人となりを、様々な写真やパネルで紹介しています。将来の鉄道の在り方を見つめ、東海道新幹線計画を推し進めた偉業に、触れることが出来ます。

２　四国鉄道文化館・北館

十河信二に最も関係の深い、初代『０系新幹線』の車両が展示されており、客室や運転席にも座ることが出来ます。また、十河信二が推し進めた、国鉄の動力近代化を担って登場した『DF50』１号機も展示されています。

そのほか、四国の鉄道で使用されていた、列車運行を行うための保安装置や鉄道用品なども展示されています。

３　四国鉄道文化館・南館

南館に展示している蒸気機関車は、1975 年、北海道で最後まで運転されていた C57 形 SL５両の内の１両で、十河信二の雅号にちなみ、『春雷号』として、西条市民に親しまれて来ました。また、『DE10』１号機や、現存する唯一の『キハ 65 形 DC』も展示されています。屋外には、『フリーゲージトレイン』の第２次試験車両も展示されています。

館内には、四国の名所や四季を表わした、大きな『鉄道ジオラマ』があり、四国を走るアンパンマン特急や普通電車、ホビートレインなどが、時間を決めて運転されています。駐車場の周りには、全長 235mのミニ SL 軌道が敷設され、乗車イベント開催時には、たくさんの子供たちで賑わいます。

観光交流センターは、西条市の観光案内所も兼ねて、鉄道グッズや、地元特産の土産物売り場があります。館内の一角には、西条市特有の『うちぬき』（自噴水）があり、こんこんと清水が湧き出ています。

馬路村 魚梁瀬（やなせ）森林鉄道

〒781-6202
高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所
TEL：0887-43-2211　FAX：0887-43-2208
E-mail：yanase@vill.umaji.lg.jp
URL：http://www.umajimura.jp/

古くから高知の林業は栄えてきました。県内の多くの木材が朝廷奉納や幕府献上として活用されていた記録が古い文書に残されています。

特に銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村では、木材搬出のため、明治４４年に、国内３番目の森林鉄道として、馬路から田野間を結ぶ森林鉄道が開通しました。その後、馬路から魚梁瀬まで延長され、大正６年には本線終点の石仙まで軌道が延びました。やがて奈半利川沿いにも軌道が敷かれるようになり、総延長２５０㎞といわれる県内最大級の森林鉄道となりました。

しかし、昭和３２年、魚梁瀬ダム建設に伴い森林鉄道の廃止が決定しました。３３年から軌道の撤去がはじまり、３８年に安田川線の撤去が完了し、惜しまれながら廃線されましたが、現在でも、当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在し、人々の生活の中に残っています。

その繁栄を遂げた魚梁瀬森林鉄道の遺産として、平成２１年に橋梁や隧道など１８箇所（馬路村内では４箇所）が国の重要文化財の指定をうけました。同年には経済産業省の近代化産業遺産群にも９基（馬路村内では２基）が認定されました。広域（馬路村を含めた中芸５ヵ町村）で国の重要文化財の指定をうけるのは、我が国初のことです。

平成２９年度、森林鉄道の遺構が残る中芸５ヵ町村が申請した「森林鉄道から日本一のゆずロードへ―ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化―」が日本遺産に認定されました。

現在、貴重な観光資源としても活用され、林鉄は馬路村に多くの観光客を集めています。

●馬路森林鉄道

実物の３分の２の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約３００ｍの周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路　馬路温泉前
◎運行日／日、祝日８時30分～16時
［８月は毎日運行］
◎料金／乗車大人４００円など
◎お問い合わせ／馬路温泉
TEL:0887-44-2026

●魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道があります。指導を受けながら運転することができる「運転手体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬　丸山公園内
◎運行日／日、祝日10時00分～12時、13時～15時30分
［８月は土曜も運行］
◎料金／乗車大人４００円、運転体験１，０００円など
◎お問い合わせ／集落活動センターやなせ
TEL:0887-43-2055

団体名	宇高連絡船愛好會	〒　７０６－００１１ Tel：　　０８６３－３２－４０８１ URL：http://ukourenrakusenaiko.wixsite.com Email：aikoukai@tamano.or.jp 担当者：三村　卓也

本會は、宇高鉄道連絡船を柱として、宇高航路と日本国内の鉄道連絡船の歴史継承を中心に活動しています。１９９３年の高校生時代に同級生５名で結成、流石に船舶の保存は出来ませんでしたが、宇野側の発着バースの１部保存に成功（経済産業省近代化産業遺産に認定）し、目立たないのですが、一応現存しています。

現在は２０～７０歳代の年齢層で２０名が在籍しています。それぞれの得意分野を活かし、分担・協力しながら活動を展開しています。

また、２０１９年末に休止となった宇高航路につきましても、あくまで鉄道ではなく、海上国道としての復帰に向けた活動に取り組んでいます。

（下左：宇高連絡船現役時代の貨車積み込み風景、下右：保存されている発着バースの１部）

具体的には上記バースの保存、資料の収集・研究、期間を決めての展示や関係者への聞き取り調査、模型の製作やホームページの運営等を行っています。

宇高連絡船自体、地元でもあまり詳しく知られていない（※）為、分かり易い本の執筆も手掛けています。

※カーフェリーの「宇高国道フェリー」と混同されたり、鉄道貨車を運んでいた事を知らない等

（下左：資料の計測と撮影風景、下右：１９７０年頃の宇野駅構内を再現したＮゲージ模型）

今後の課題として、早急に資料のデジタル管理と関係者への聞き取り調査を行う事を最優先として、會員と調整を行っています。

また、他航路に関係している団体の方々との連携を強化し、「日本での鉄道連絡船とは？」をテーマに、後世に伝えて行く事を考えています。

団体名	九州旅客鉄道株式会社	〒812-8566　福岡市博多区博多駅前 3-25-21 Tel：092-474-2541　Fax：092-474-3898 URL：http://www.jrkyushu.co.jp/

気動車として日本初！

九州鉄道記念館に展示中の「キハ四二〇五五号気動車（キハ〇七形四一号気動車）」が国の重要文化財指定へ！

ＪＲ九州が所有する九州鉄道記念館（福岡県北九州市）で開館当時から展示している「キハ四二〇五五号気動車」（キハ〇七形四一号気動車）が、2021 年 10 月 15 日（金）に国の文化審議会において、重要文化財（美術工芸品）に指定をすべきとの答申を受け、重要文化財に指定される運びとなりました。

九州に存在する鉄道車両としては初めて、また、「気動車」としては日本で初めての指定となります。当社では、重要文化財の意義、重要性を認識したうえで、引き続き展示車両として、加えて文化財としての保存に努めてまいります。

車両の概要について

（１） 気動車の概要

気動車（きどうしゃ）とはエンジンを搭載した列車の車両のことで、運転に必要な動力源として、内燃機関を搭載して自走する鉄道車両です。

（２）車両の概要

○仕様
製 造 年：1937 年
製造会社：日本車輌
車体長さ：約 19m
重　　さ：約 27 トン
定　　員：120 人（製造時）

外装

車内

○特徴
戦前の代表的な機械式（クラッチで変速する方式）気動車で、連結運転の時は双方の運転士が合図しながら走っていました。昭和 27 年にはガソリンエンジンをディーゼルエンジンに変更しており、中央 2 枚が大きい 6 枚窓と大きな曲面を描く独特の前面も特徴です。

○当該車両の歴史
1937 年（昭和 12 年）　日本車輌製造株式会社にて製造
1952 年（昭和 27 年）　ガソリンエンジンからディーゼルエンジンに変更
1957 年（昭和 32 年）　豊後森機関区に配置され宮原（みやのはる）線で使用
1969 年（昭和 44 年）　引退（引退後、豊後森機関区や大分運転所で保管）
2003年（平成 15 年）　九州鉄道記念館にて展示車両として保存

（３）文化財としての評価

・車体や内装の多くに製造時の姿をとどめ、昭和初期の旅客車の現存例として重要である。
・機械式の変速装置が残っている唯一の同形車輌である。
・車体の大型化と軽量化、ガソリン機関の出力向上と運行速度の高速化、車両の国産化と標準化を達成し、日本の気動車の技術発達史を俯瞰するうえで貴重であり、鉄道史、社会・経済史、科学技術上において重要である。（文化庁報道発表資料より抜粋）

団体名	北九州線車両保存会	〒　818-0071 福岡県筑紫野市二日市西 3-12-1 Tel：070-4171-7738　　Fax： URL： Email：teshi729@yahoo.co.jp 担当者：手嶋 康人

〇当会の概要

北九州線車両保存会は平成 13 年に結成した任意団体で、活動開始から 20 年目となります。
西鉄北九州線のさよなら電車となった 621 号を平成 13 年に購入し、のちに土佐電より元北方線 324 号を購入、平成 24 年より西鉄香椎花園へ設置いたしました。
また、当会では北九州市の門司港レトロ地区にて保存されている 148 号の管理を行っておりましたが、令和元年度に地元企業に管理を引き継ぎ、保存会としての車内公開は終了いたしました。

〇今後の活動

活動場所である西鉄香椎花園が令和 3 年末をもち閉園となることをうけ、現在保有車両の移設先を検討中です。
またコロナ禍において車内の公開を中止しておりましたが、閉園前の一ヶ月間、12 月中の土日は公開を行う予定です。

〇課外活動

当会では近年、各地の保存車両の移設・塗装・展示用軌道敷設など様々なお手伝いをさせていただいております。お困りごとがございましたらぜひご相談ください。

↑東武クハ 703 前面塗装
(埼玉県行田市マスタードシード電車食堂様)

↑京急デハ 1052 移設
群馬県前橋市～千葉県いすみ市

↑京都市電 1831 軌道敷設

←↑→オハネフ 25 211 移設・塗装

日本鉄道保存協会

〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目61番地　泰生ビル405号室
公益社団法人 横浜歴史資産調査会 内
電話／FAX: 045-651-1730
URL http://www.rpsj.jp/
E-mail info@rpsj.jp